

森トラスト総合リート投資法人

資産運用報告 第21期

自平成24年4月1日 至平成24年9月30日

東京都港区赤坂二丁目11番7号 <http://www.mt-reit.jp/>

第21期決算ハイライト

■ 安定した運用実績

1口当たり分配金

「1口当たり分配金」を意識した運用を行い、安定した分配金の維持を目指します。

第21期確定分配金

19,639円

■ 資産規模の着実な成長

資産規模

東京都心部の大型オフィスビルを中心に投資し、資産規模の着実な成長を目指します。

2,878億円

(取得価格合計)

■ 高稼働率の維持

稼働率

安定した収益を確保するためのテナントリレーションを重視し、高稼働率の維持を目指します。

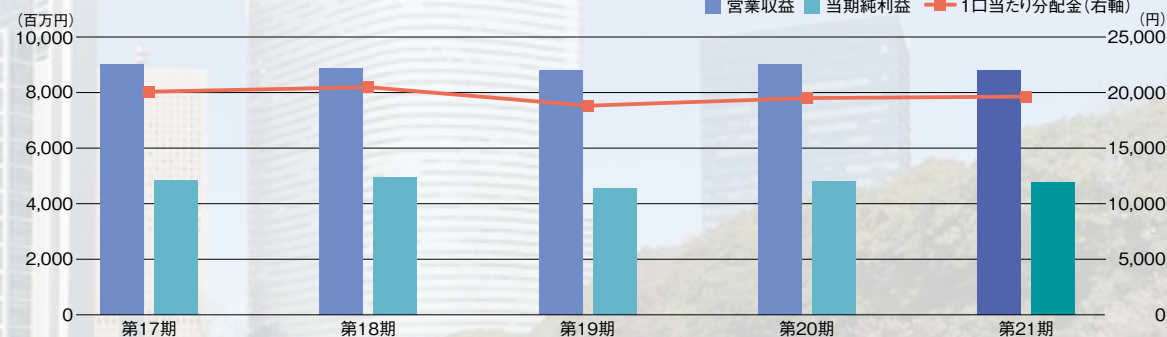
99.5%

(第21期末現在)

■ 決算概況

期 (決算年月)	単位	第17期 (平成22年9月)	第18期 (平成23年3月)	第19期 (平成23年9月)	第20期 (平成24年3月)	第21期 (平成24年9月)
営業収益	百万円	9,027	8,886	8,801	9,014	8,786
経常利益	百万円	4,860	4,972	4,555	4,868	4,753
当期純利益	百万円	4,859	4,957	4,554	4,817	4,752
分配総額	百万円	4,859	4,957	4,554	4,719	4,752
1口当たり分配金額	円	20,079	20,486	18,819	19,504	19,639
総資産額	百万円	294,374	288,535	288,937	289,933	296,515
純資産額	百万円	141,468	141,567	141,163	141,427	141,459
自己資本比率	%	48.1	49.1	48.9	48.8	47.7

業績の推移



投資主の皆様へ

投資主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は森トラスト総合リート投資法人に対しまして、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに本投資法人の第21期(平成24年9月期)の運用概況と決算に関しまして、ご報告申し上げます。

当期は、本投資法人として初めて福岡の物件「天神プライム」を平成24年7月12日に取得(取得価格6,940百万円)いたしました。当期末においては、ポートフォリオ全体の稼働率は99.5%と引き続き高い水準を維持しております。

保有する14物件(取得価格合計287,816百万円)の運用の結果、営業収益8,786百万円、経常利益4,753

百万円、当期純利益4,752百万円となり、分配金は前期を上回る1口当たり19,639円となりました。

なお、当期に影響はございませんが、平成24年10月18日に「コーナン相模原西橋本店」を取得(取得価格7,460百万円)し、ポートフォリオの更なる充実を図っております。

第22期以降につきましても、安定したインカムゲインの確保と運用資産の着実な成長を目指して、中長期的な安定運用を行うことを基本としてまいります。

投資主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



森トラスト総合リート投資法人
執行役員 堀野 郷

CONTENTS

決算概況	1	I. 資産運用報告	18
本投資法人の特徴/軌跡	2	II. 貸借対照表	36
1. 選別投資による安定的なポートフォリオの構築	4	III. 損益計算書	38
2. 森トラストグループとの幅広い連携	5	IV. 投資主資本等変動計算書	39
3. 堅実な財務戦略	6	V. 注記表	40
新規物件の取得	7	VI. 金銭の分配に係る計算書	49
ポートフォリオデータ	8	VII. 会計監査人の監査報告書	50
ポートフォリオ組入物件の概要	9	VIII. キャッシュ・フロー計算書(参考情報)	51
投資口の状況	16	投資主インフォメーション	53
本投資法人/資産運用会社の概要	17		

■ コーポレートマークのコンセプト



本投資法人のコーポレートマークは、森トラストグループと共通のコンセプトであるMとTを組み合わせたものです。森(MORI)のMを表す縦の三つの楕円は、右に行くほど大きくなっており、確実な「成長性」を表現しています。また、横と縦の組み合わせはトラスト(TRUST)のTを表すとともに、揺るぎない「安定性」を表現しています。さらに、合計四つの楕円には「信頼性」「継続性」「他益性」「社会性」の意味がそれぞれ象徴されています。

本投資法人の特徴

本投資法人は、中長期的な安定運用を基本とし、安定したインカムゲインの確保、ポートフォリオの着実な成長を目指すとともに、「収益性」「安定性」「成長性」の最適バランスを念頭に運用を行います。

1. 選別投資による安定的なポートフォリオの構築
2. 森トラストグループとの幅広い連携
3. 堅実な財務戦略

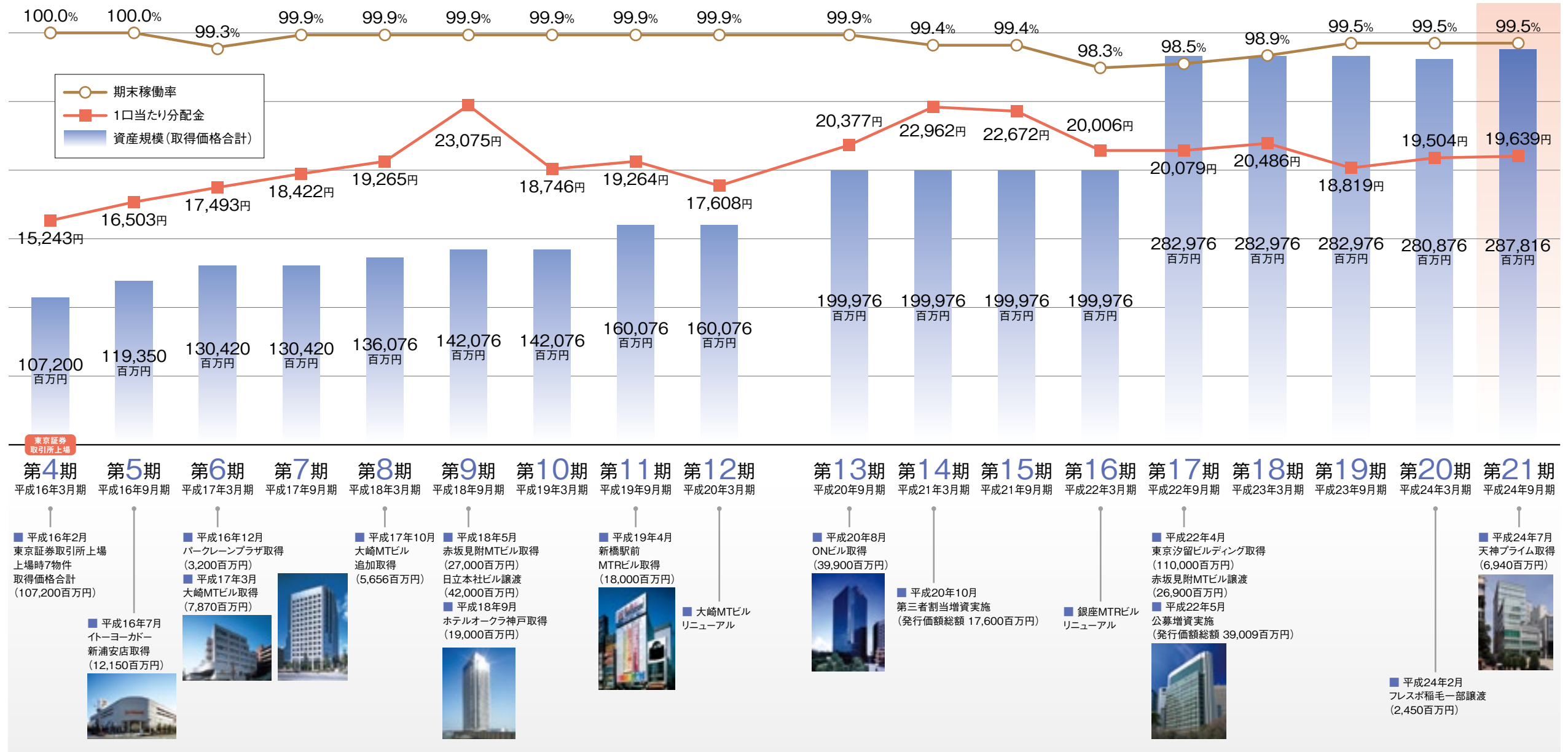
▶ 詳しくは、P4をご覧ください

▶ 詳しくは、P5をご覧ください

▶ 詳しくは、P6をご覧ください

■ 本投資法人の軌跡

本投資法人は、堅実な運用のもと、上場以来安定した分配を行ってきました。



1. 選別投資による安定的なポートフォリオの構築

2. 森トラストグループとの幅広い連携

■ 投資戦略

本投資法人は、性急な資産規模の拡大を追求することなく、中長期的な安定運用に資する物件への選別投資を行います。

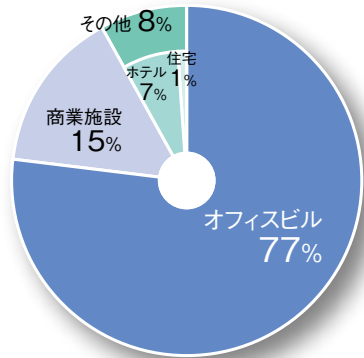
■ 投資実績

本投資法人は、東京都心部のオフィスビルを中心としたポートフォリオを構築し、中長期的な安定運用を図ります。

■ ポートフォリオのアロケーション

用途別

保有する不動産等のうち、「オフィスビル」が全体の77%を占めています。「オフィスビル」への投資を中心としながら、「商業施設」・「その他(住宅・ホテル)」への投資も行い、用途分散を図ります。

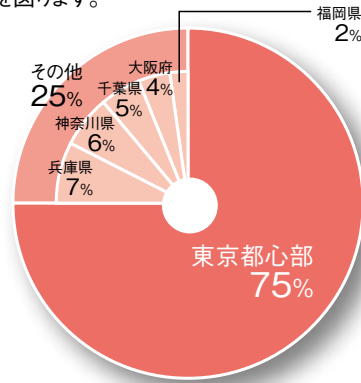


不動産等の取得価格に基づく比率

※ 複数の用途を有する物件については、その主たる用途をもってその属性を判断します。東京汐留ビルディングについては、主たる用途である「オフィスビル」に区分しています。

地域別

保有する不動産等のうち、「東京都心部」に所在するものが全体の77%を占めています。「東京都心部」への投資を中心としながら、「その他」の地域への投資も行い、地域分散を図ります。

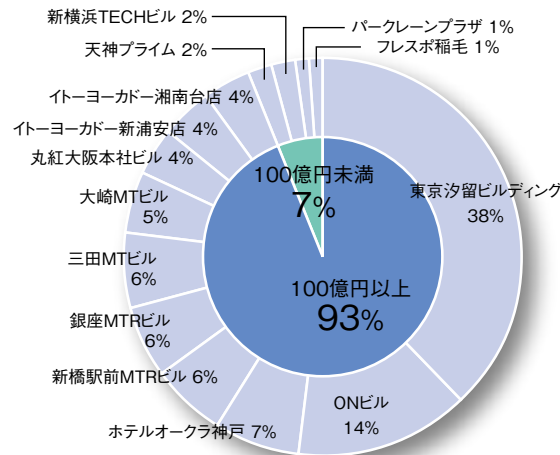


不動産等の取得価格に基づく比率

※「東京都心部」:千代田区・中央区・港区・品川区・渋谷区・新宿区
「その他」:首都圏(東京都心部を除く東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県)及びその他主要都市

■ 市場競争力の高い大型物件を中心とする投資実績

保有する不動産等のうち、1物件当たりの取得価格が100億円以上である物件が93%を占めています。今後も市場競争力の高い大型オフィスビルを中核に、不動産等の取得を図ります。



不動産等の取得価格に基づく比率

(注1)「丸紅大阪本社ビル」は、平成24年10月1日付で「大阪丸紅ビル」に名称変更しています。以下同じです。
(注2) 割合については、小数点第1位を四捨五入して記載しています。

■ 不動産等の情報提供に関する協定

本投資法人及び森トラスト株式会社は、本投資法人と森トラストグループ3社との間における不動産等の情報提供に関する協定を締結しています。

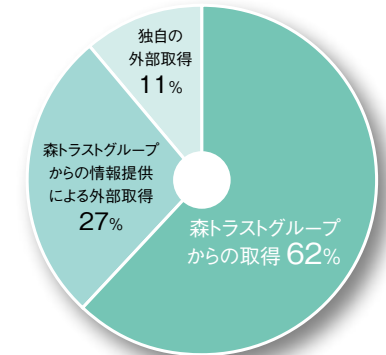


■ 大規模災害対応等の協力に関する協定

本投資法人は、森トラスト(株)及び森トラスト・ビルマネジメント(株)との間で、大規模災害対応等の協力に関する協定を締結しています。防災への取り組みを強化する森トラストグループとの連携を図ることにより、保有物件の事業継続性の確保を進めていきます。

■ 取得実績

保有する不動産等のうち、森トラストグループからの取得が62%、同グループからの情報提供による外部取得が27%を占めています。今後も森トラストグループとの連携により、投資機会の確保を図ります。



※割合については、小数点第1位を四捨五入して記載しています。

■ 森トラストグループの不動産賃貸・管理ノウハウの活用

本投資法人は、森トラストグループの有する不動産賃貸・管理ノウハウを活用することにより、ポートフォリオの収益性向上を図ります。

テナントリーシング
幅広いネットワークを活かした
新規テナントの誘致



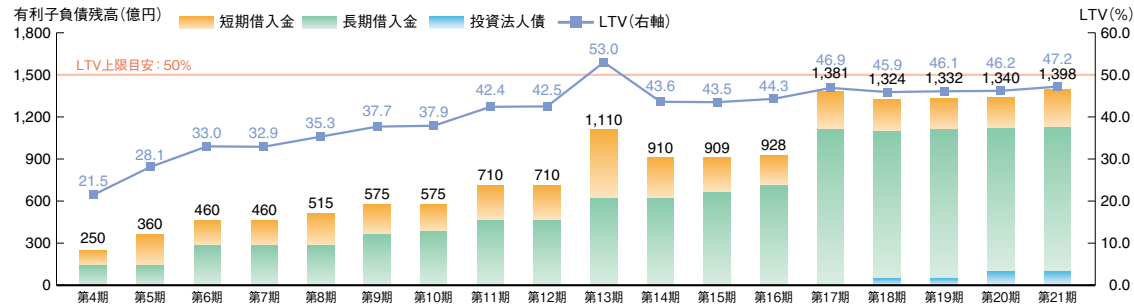
プロパティマネジメント
豊富な不動産管理
ノウハウの提供

マスターリース
マスターリース契約締結
による収益の安定化

3. 堅実な財務戦略

■ 期末有利子負債残高・LTVの推移

本投資法人におけるLTV(総資産に対する有利子負債の比率)は、最大50%を目安とし、堅実な財務運営を図ります。また、負債のうち一定の割合を短期借入金とすることで柔軟な財務戦略を実現しています。



(注1) 期末総資産有利子負債比率(LTV): 期末有利子負債残高/期末総資産額
 (注2) LTVについては、小数点第2位を四捨五入して記載しています。
 (注3) 新たな不動産等の取得等に伴い、LTVの水準が一時的に50%を超えることがあります。

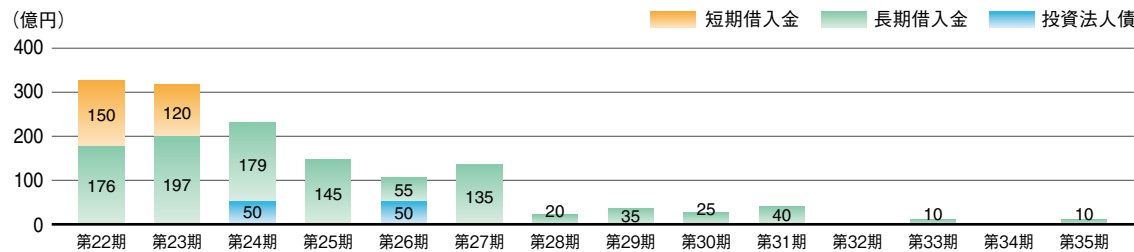
■ 有利子負債の状況

有利子負債残高 (第21期末現在)		借入先 (第21期末現在)	
有利子負債残高	1,398億円	借入先	残高(億円)
短期借入金	270億円	みずほコーポレート銀行	275
長期借入金(1年内返済予定含む)	1,028億円	三井住友銀行	240
投資法人債	100億円	三菱UFJ信託銀行	175
固定金利比率 ^(注1)	80.7%	三井住友信託銀行	170
期中平均利率 ^(注2)	1.20%	日本政策投資銀行	133
短期借入金	0.49%	三菱東京UFJ銀行	130
長期借入金・投資法人債	1.36%	福岡銀行	50
		あおぞら銀行	30
		第一生命保険	25
		オリックス銀行	20
		日本生命保険	20
		りそな銀行	15
		八十二銀行	10
		みずほ信託銀行	5

(注1) 固定金利比率については、小数点第2位を四捨五入して記載しています。
 (注2) 期中平均利率については、小数点第3位を四捨五入して記載しています。

■ 有利子負債の返済期日の分散状況

本投資法人は、短期借入金と長期借入金のバランス、返済期日の分散を意識した運用に努めています。(第21期末現在)



■ 格付の状況

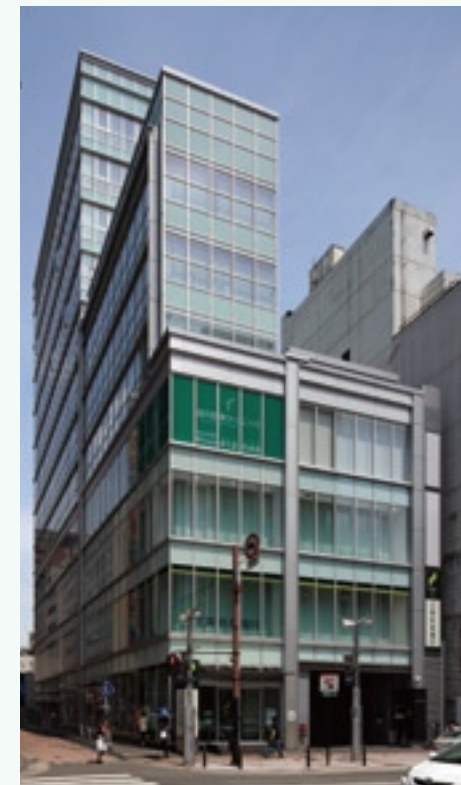
格付機関	格付対象	格付	見通し
日本格付研究所(JCR)	長期優先債務	AA	安定的

新規物件の取得

■ 当期(第21期)物件取得

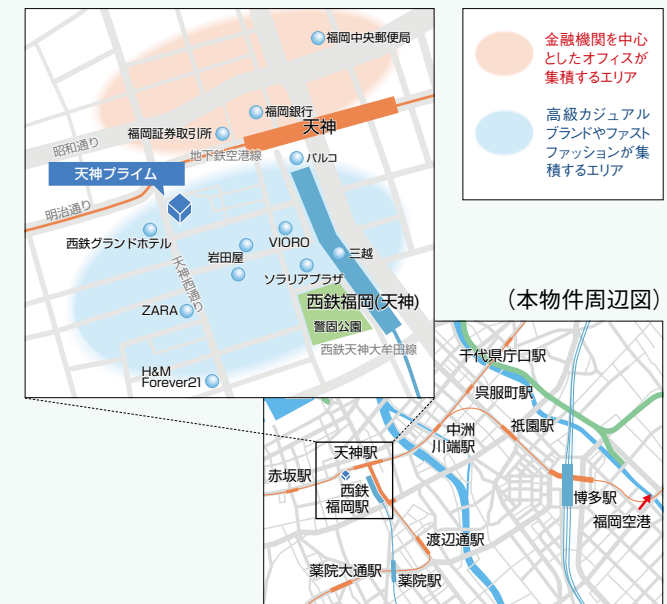
天神プライム

本投資法人は、平成24年7月12日に天神プライムを取得しました。天神プライムは、九州最大の商業集積地である天神のなかでも利便性に優れた立地に位置しており、都市型サービス産業を中心とするテナントニーズが期待できます。また、主要テナントとの間で長期の定期建物賃貸借契約を締結しており、安定収益を確保しています。



取得価格	6,940百万円(取得時鑑定評価額: 7,320百万円)
想定NOI利回り	6.6%(取得時)
稼働率	100%(第21期末現在)
テナント数	14(第21期末現在)

※物件概要はP.12をご覧ください。



■ 翌期(第22期)物件取得

コーナン相模原西橋本店

本投資法人は、平成24年10月18日にコーナン相模原西橋本店を取得しました。

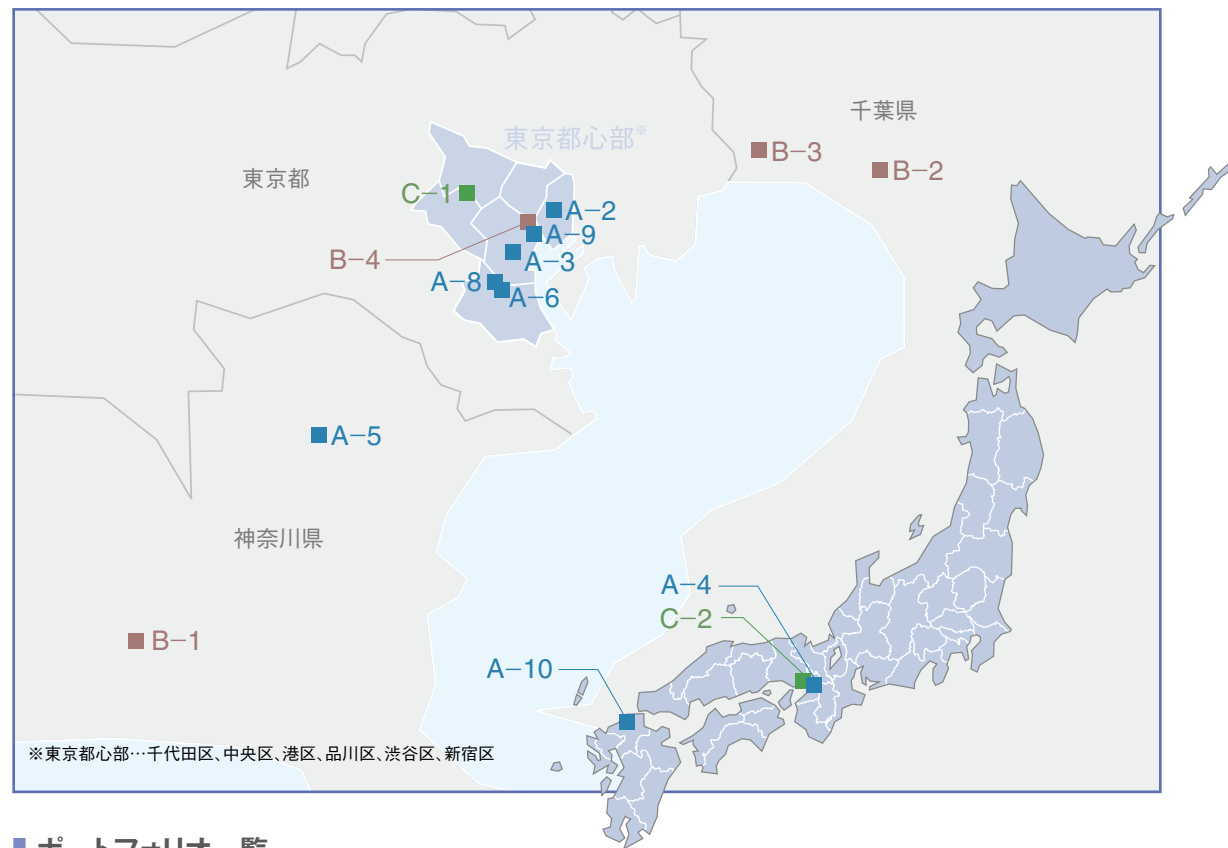


所在地(住居表示)	相模原市緑区西橋本五丁目4番3号
地積	19,878.57㎡
延床面積	40,283.77㎡
構造	鉄骨造/5階建
建築時期	平成17年8月
取得価格	7,460百万円(取得時鑑定評価額: 7,560百万円)
想定NOI利回り	6.1%(取得時)
稼働率	100%(取得時)
テナント数	1(取得時)
契約形態	定期建物賃貸借契約(一棟一括賃貸借)
賃貸借期間	平成17年9月28日から平成35年9月27日まで

ポートフォリオデータ

ポートフォリオ組入物件の概要

■ポートフォリオマップ



■ポートフォリオ一覧

用途区分	物件名称	地域区分	取得価格 (億円)	投資比率 (%) ^(注1)	取得時期	稼働率 (%) ^(注2)
A-2	オフィスビル	銀座MTRビル	160	5.6	平成15年3月31日	99.9
A-3	オフィスビル	三田MTビル	160	5.6	平成15年12月1日	100.0
A-4	オフィスビル	丸紅大阪本社ビル	125	4.3	平成14年9月30日	100.0
A-5	オフィスビル	新横浜TECHビル	69	2.4	平成15年11月14日	89.5
A-6	オフィスビル	大崎MTビル	135 ^(注3)	4.7	平成17年3月31日 平成17年10月28日	100.0 ^(注4)
A-8	オフィスビル	ONビル	399	13.9	平成20年8月29日	100.0
A-9	オフィスビル	東京汐留ビルディング	1,100	38.2	平成22年4月13日	100.0
A-10	オフィスビル	天神プライム	69	2.4	平成24年7月12日	100.0 ^(注5)
B-1	商業施設	イトーヨーカドー湘南台店	116	4.0	平成15年3月28日	100.0
B-2	商業施設	フレスポ稲毛	21 ^(注6)	0.7	平成14年3月28日	100.0
B-3	商業施設	イトーヨーカドー新浦安店	121	4.2	平成16年7月30日	100.0
B-4	商業施設	新橋駅前MTRビル	180	6.3	平成19年4月25日	100.0
C-1	その他	パークレーンプラザ	32	1.1	平成16年12月24日	94.1
C-2	その他	ホテルオークラ神戸	190	6.6	平成18年9月20日	100.0

(注1) 投資比率とは、不動産等の取得価格の合計に対する各資産の取得価格の比率をいい、小数点第2位を四捨五入して記載しています。
 (注2) 稼働率は平成24年9月30日現在の数値を記載しています。なお、ポートフォリオ全体の稼働率は99.5%です。
 (注3) A-6「大崎MTビル」の取得価格は、平成17年3月31日(7,870百万円)及び平成17年10月28日(5,656百万円)の各取得価格の合計額を記載しています。
 (注4) A-6「大崎MTビル」は、賃料収入がサブリース契約の賃料に連動する仕組みのマスターリース契約を採用していますが、上記表中の当該物件の稼働率については、マスターリース契約に基づく稼働率を記載しています。なお、当期末現在におけるサブリース契約に基づく稼働率は96.9%です。
 (注5) A-10「天神プライム」は、本投資法人が信託受託者との間で締結したマスターリース契約に基づき土地及び建物を借り受け、本投資法人から各テナントに対してサブリースをする仕組みを採用しており、上記表中の当該物件の稼働率については、サブリース契約に基づく稼働率を記載しています。
 (注6) B-2「フレスポ稲毛」の取得価格は、平成24年2月29日に信託土地の50%を譲渡したため、当該物件全体の取得価格である4,200百万円の50%に相当する価格を記載しています。

■第21期末保有物件

OFFICE BUILDINGS



A-2 銀座MTRビル

(平成15年3月31日取得)

所在地(住居表示)	東京都中央区銀座六丁目18番2号
地積	4,655.56㎡ ^(注1)
延床面積	38,901.73㎡ ^(注2)
構造	鉄骨鉄筋コンクリート・鉄筋コンクリート・鉄骨造
階数	地下5階付17階建
建築時期	昭和57年3月(平成22年大規模修繕実施)
所有形態	建物:所有権 土地:所有権

(注1) 土地全5筆のうち、4筆(合計面積 367.69㎡)は本投資法人が単独で所有しており、1筆(面積 4,287.87㎡、本投資法人の共有持分10,000分の6,570)は他の共有者と共有しています。
 (注2) 建物は、区分所有建物であり、上記数字は区分所有建物の一棟の建物の延床面積を記載しています。なお、本投資法人が所有する専有部分の床面積は23,614.49㎡です。

物件収支状況(第21期)		(単位:千円)
当期稼働日数	183日	
不動産賃貸事業収益		(注)
不動産賃貸事業費用		(注)
不動産賃貸事業損益	447,878	

(注) 銀座MTRビルの不動産賃貸事業収益及び不動産賃貸事業費用については、やむを得ない事情により開示していません。



A-3 三田MTビル

(平成15年12月1日取得)

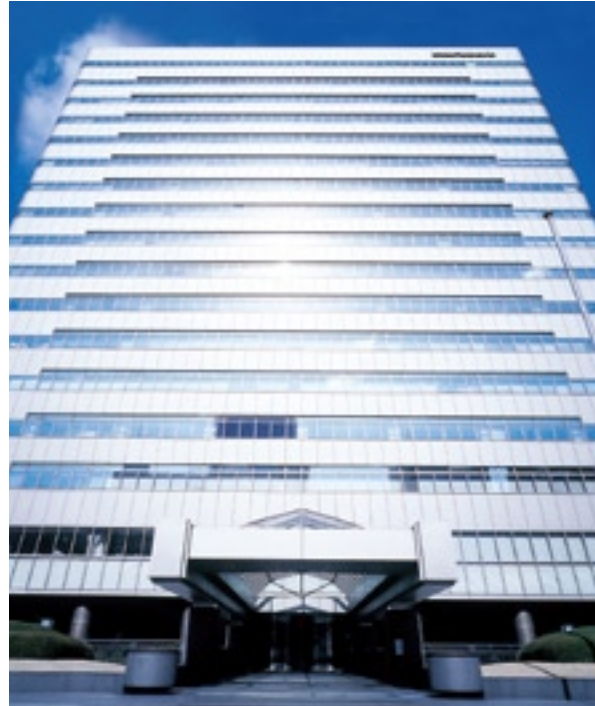
所在地(住居表示)	東京都港区三田三丁目13番12号
地積	3,489.80㎡
延床面積	21,043.02㎡ ^(注)
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	地下1階付11階建
建築時期	昭和49年9月(平成9年大規模修繕実施)
所有形態	建物:所有権 土地:所有権

(注) 延床面積には、附属建物72.70㎡を含みます。

物件収支状況(第21期)		(単位:千円)
当期稼働日数	183日	
不動産賃貸事業収益	718,279	
不動産賃貸事業費用	196,324	
不動産賃貸事業損益	521,954	

ポートフォリオ組入物件の概要

OFFICE BUILDINGS



A-4 丸紅大阪本社ビル

(平成14年9月30日取得)

所在地(住居表示)	大阪市中央区本町二丁目5番7号
地積	5,878.72㎡
延床面積	41,574.47㎡
構造	鉄骨・鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	地下3階付19階建
建築時期	昭和59年3月(昭和61年2月増築)
所有形態	建物:所有権 土地:所有権



物件収支状況(第21期) (単位:千円)

当期稼働日数	183日
不動産賃貸事業収益	600,177
不動産賃貸事業費用	141,624
不動産賃貸事業損益	458,553



A-5 新横浜TECHビル

(平成15年11月14日取得)

所在地(住居表示)	【A館】横浜市港北区新横浜三丁目9番18号 【B館】横浜市港北区新横浜三丁目9番1号
地積	2,671.11㎡
延床面積	25,187.22㎡
構造	【A館】鉄骨鉄筋コンクリート造 【B館】鉄骨・鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	【A館】地下1階付9階建 【B館】地下1階付16階建
建築時期	【A館】昭和61年2月 【B館】昭和63年2月
所有形態	建物:所有権 土地:所有権



物件収支状況(第21期) (単位:千円)

当期稼働日数	183日
不動産賃貸事業収益	404,149
不動産賃貸事業費用	234,769
不動産賃貸事業損益	169,379

OFFICE BUILDINGS



A-6 大崎MTビル

(平成17年3月31日取得)(平成17年10月28日追加取得)

所在地(住居表示)	東京都品川区北品川五丁目9番11号
地積	13,852.74㎡ ^(注1)
延床面積	26,980.68㎡ ^(注2)
構造	鉄骨・鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	地下3階付14階建
建築時期	平成6年7月(平成20年大規模修繕実施)
所有形態	建物:所有権 土地:所有権

(注1)土地全17筆のうち、10筆(合計面積1,807.12㎡)は本投資法人が単独で所有しており、3筆(合計面積1,073.67㎡、本投資法人の共有持分1,081,560分の710,234)、1筆(面積121.28㎡、本投資法人の共有持分5分の1)及び3筆(合計面積10,850.67㎡、本投資法人の共有持分1,000,000分の159,861)は他の共有者と共有しています。なお、上記共有土地のうち3筆(合計面積10,850.67㎡)における本投資法人の共有持分(1,000,000分の159,861)以外の共有持分(1,000,000分の840,139)は、本投資法人を唯一の信託受益者とするONビルの信託受益者が保有しています。

(注2)建物は、共有建物であり、上記数字に本投資法人の共有持分(1,000,000分の838,899)を乗じた面積は22,634.06㎡です。



物件収支状況(第21期) (単位:千円)

当期稼働日数	183日
不動産賃貸事業収益	437,856
不動産賃貸事業費用	100,400
不動産賃貸事業損益	337,455

(注)上記は、先行取得分と追加取得分を合わせて記載しています。



A-8 ONビル

(平成20年8月29日取得)

所在地(住居表示)	東京都品川区北品川五丁目9番12号
地積	10,850.67㎡ ^(注)
延床面積	32,812.27㎡
構造	鉄骨・鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	地下2階付21階建
建築時期	平成2年11月
所有形態	建物:所有権 土地:所有権

(注)ONビルの土地面積は、本投資法人を唯一の信託受益者とする信託受益者が共有持分を保有する土地3筆の合計面積(10,850.67㎡)であり、信託受益者が1,000,000分の840,139の共有持分を保有しています。なお、信託受益者保有分以外の共有持分は、本投資法人が大崎MTビルの敷地として保有しています。



物件収支状況(第21期) (単位:千円)

当期稼働日数	183日
不動産賃貸事業収益	(注)
不動産賃貸事業費用	(注)
不動産賃貸事業損益	656,434

(注)ONビルの不動産賃貸事業収益及び不動産賃貸事業費用については、やむを得ない事情により開示していません。

ポートフォリオ組入物件の概要

OFFICE BUILDINGS



A-9 東京汐留ビルディング

(平成22年4月13日取得)

所在地(住居表示)	東京都港区東新橋一丁目9番1号
地積	17,847㎡ ^(注1)
延床面積	191,394.06㎡ ^(注2)
構造	鉄骨鉄筋コンクリート・鉄筋コンクリート・鉄骨造
階数	地下4階付37階建
建築時期	平成17年1月
所有形態	建物:所有権 土地:所有権

(注1)土地面積は、本投資法人が準共有する停止条件付所有権移転請求権及び使用収益権の対象となる土地の面積であり、他の準共有者の準共有持分にかかる部分を含んでいます。当該土地にかかる権利のうち、本投資法人の準共有持分は100分の50です。

(注2)建物は、共有建物であり、上記数字に本投資法人の共有持分(100分の50)を乗じた面積は95,697.03㎡です。



物件収支状況(第21期) (単位:千円)

当期稼働日数	183日
不動産賃貸事業収益	2,795,000
不動産賃貸事業費用	926,156
不動産賃貸事業損益	1,868,843



A-10 天神プライム

(平成24年7月12日取得)

所在地(住居表示)	福岡市中央区天神二丁目7番21号
地積	1,110.73㎡ ^(注)
延床面積	7,722.04㎡
構造	鉄骨・鉄筋コンクリート造
階数	地下1階付12階建
建築時期	平成20年3月(平成20年10月増築)
所有形態	建物:所有権 土地:所有権(一部借地権)

(注)地積には、借地部分28.98㎡を含みます。



物件収支状況(第21期) (単位:千円)

当期稼働日数	81日
不動産賃貸事業収益	124,389
不動産賃貸事業費用	31,472
不動産賃貸事業損益	92,916

RETAILS



B-1 イトヨーカドー湘南台店

(平成15年3月28日取得)

所在地(住居表示)	神奈川県藤沢市石川六丁目2番地の1
地積	35,209.93㎡
延床面積	53,393.66㎡ ^(注)
構造	鉄骨造
階数	5階建
建築時期	平成14年11月
所有形態	建物:所有権 土地:所有権

(注)延床面積には、附属建物54.88㎡を含みます。



物件収支状況(第21期) (単位:千円)

当期稼働日数	183日
不動産賃貸事業収益	395,045
不動産賃貸事業費用	130,884
不動産賃貸事業損益	264,161



B-2 フレスポ稲毛

(平成14年3月28日取得)

所在地	千葉県稲毛区長沼原町731番17
地積	39,556.71㎡
延床面積	—
構造	—
階数	—
建築時期	—
所有形態	建物:— 土地:所有権

(注)本投資法人が所有する不動産信託受益権にかかる信託不動産は土地のみであり、建物は含みません。



物件収支状況(第21期) (単位:千円)

当期稼働日数	183日
不動産賃貸事業収益	123,745
不動産賃貸事業費用	10,653
不動産賃貸事業損益	113,091

ポートフォリオ組入物件の概要

RETAILS



B-3 イトヨーカドー新浦安店

(平成16年7月30日取得)

所在地(住居表示)	千葉県浦安市明海四丁目1番1号
地積	33,537.07㎡
延床面積	57,621.38㎡
構造	鉄骨造
階数	5階建
建築時期	平成12年9月
所有形態	建物:所有権 土地:所有権



物件収支状況(第21期) (単位:千円)

当期稼働日数	183日
不動産賃貸事業収益	378,165
不動産賃貸事業費用	145,082
不動産賃貸事業損益	233,082



B-4 新橋駅前MTRビル

(平成19年4月25日取得)

所在地(住居表示)	東京都港区新橋二丁目8番5号
地積	1,069.88㎡
延床面積	7,820.45㎡
構造	鉄骨・鉄骨鉄筋コンクリート・鉄筋コンクリート造
階数	地下2階付8階建
建築時期	平成11年4月
所有形態	建物:所有権 土地:所有権



物件収支状況(第21期) (単位:千円)

当期稼働日数	183日
不動産賃貸事業収益	459,000
不動産賃貸事業費用	72,571
不動産賃貸事業損益	386,428

RESIDENCES & HOTELS



C-1 パークレーンプラザ

(平成16年12月24日取得)

所在地(住居表示)	東京都渋谷区神宮前二丁目30番32号
地積	1,702.95㎡
延床面積	5,246.78㎡ ^(注)
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地下1階付7階建
建築時期	昭和63年6月
所有形態	建物:所有権 土地:所有権

(注) 建物は、区分所有建物ですが、全ての区分所有権を単独で所有しています。なお、上記数字は規約共用部分の物置2棟を含みます。



物件収支状況(第21期) (単位:千円)

当期稼働日数	183日
不動産賃貸事業収益	101,764
不動産賃貸事業費用	33,190
不動産賃貸事業損益	68,573



C-2 ホテルオークラ神戸

(平成18年9月20日取得)

所在地(住居表示)	神戸市中央区波止場町2番1号
地積	30,944.44㎡
延床面積	72,246.86㎡ ^(注)
構造	鉄骨鉄筋コンクリート・鉄骨造
階数	地下2階付35階建
建築時期	平成元年3月(平成7年3月増築)
所有形態	建物:所有権 土地:所有権

(注) 延床面積には、附属建物8,405.80㎡を含みます。



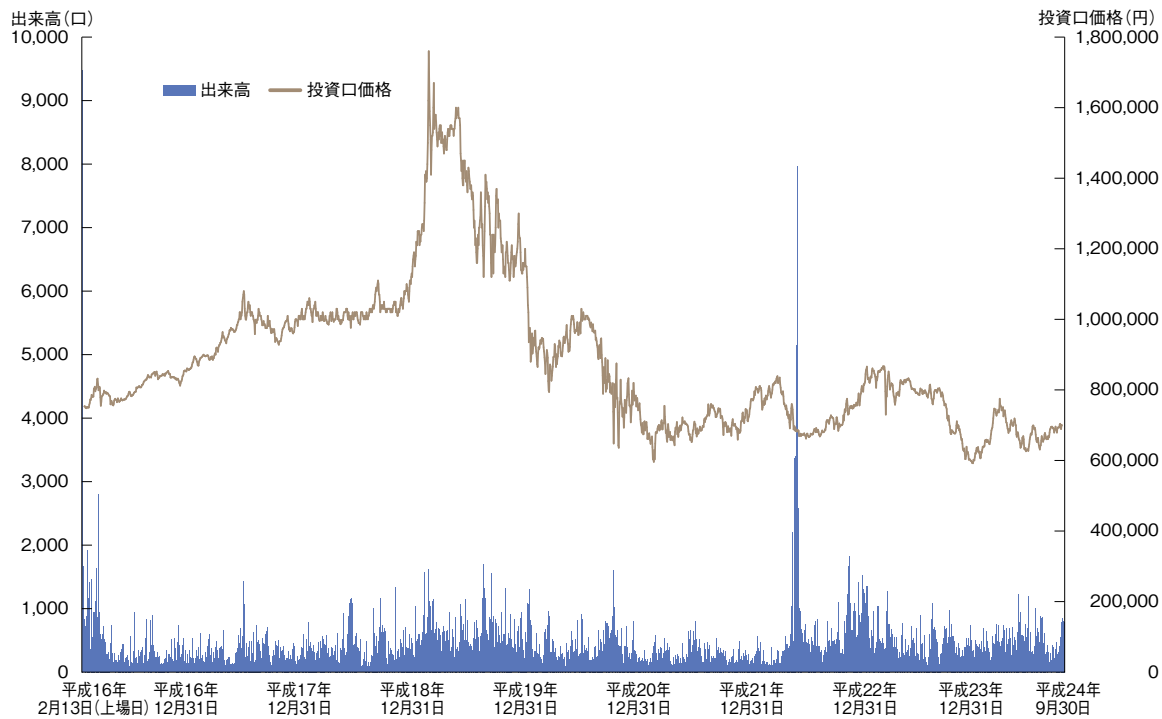
物件収支状況(第21期) (単位:千円)

当期稼働日数	183日
不動産賃貸事業収益	639,165
不動産賃貸事業費用	306,878
不動産賃貸事業損益	332,286

投資口の状況

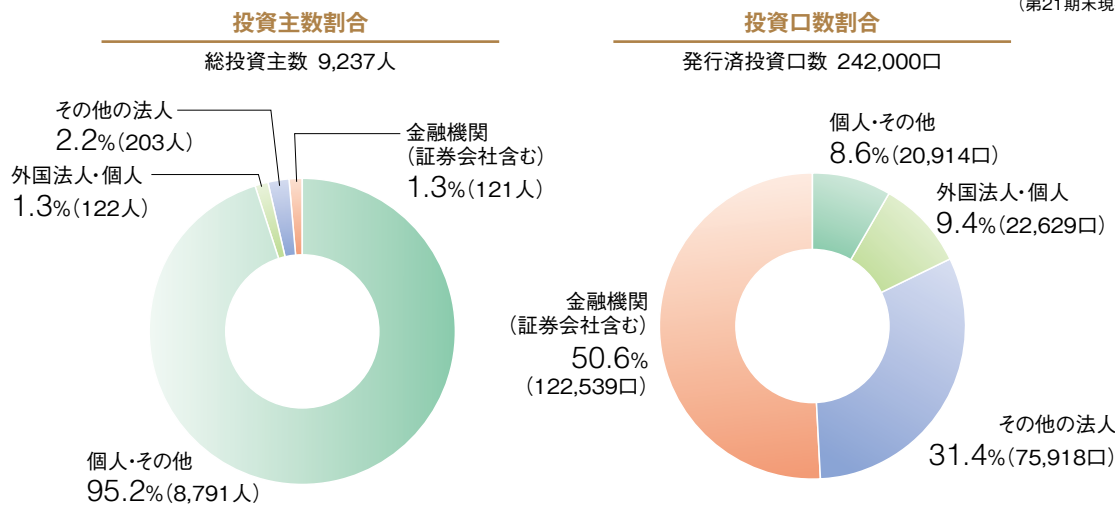
投資口価格の推移

平成16年2月13日(本投資法人の上場日)から平成24年9月30日までの東京証券取引所における本投資法人の投資口価格(終値)及び出来高の推移は以下のとおりです。



投資主の構成

(第21期末現在)

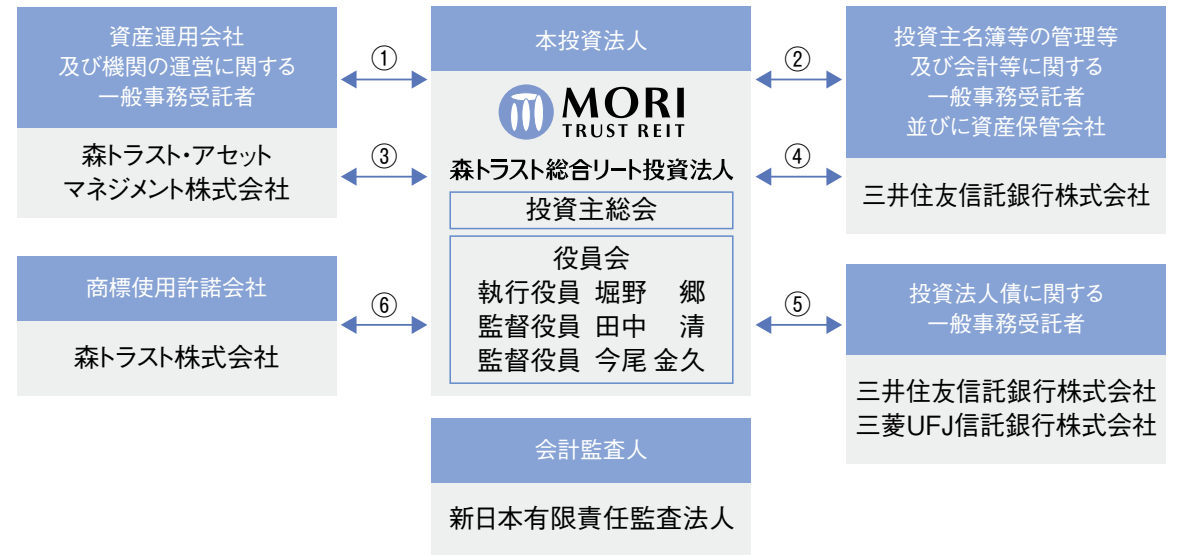


(注)比率については、小数点第2位を四捨五入して記載しています。

本投資法人／資産運用会社の概要

本投資法人の仕組図

本投資法人の基本的な仕組み及び関係法人は以下のとおりです。

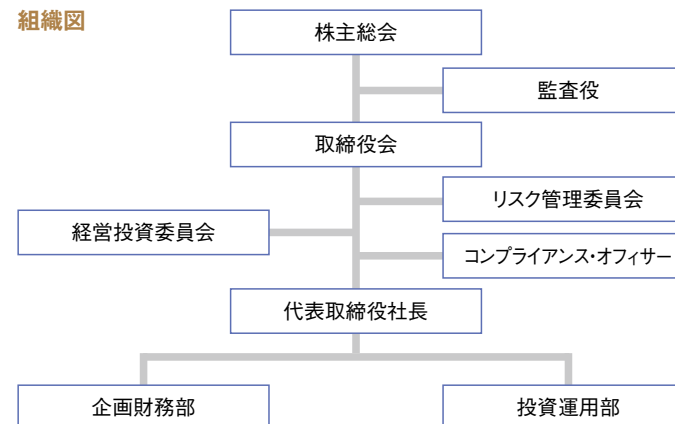


①資産運用業務委託契約 ②一般事務業務委託契約(投資主名簿等の管理及び会計等に関する事務)及び特別口座の管理に関する契約
 ③一般事務業務委託契約(機関の運営に関する事務) ④資産保管業務委託契約 ⑤財務及び発行・支払代理契約 ⑥商標使用許諾契約
 ※投資法人は、投資信託及び投資法人に関する法律の定めにより、資産の運用にかかる業務、資産の保管にかかる業務及び一般事務を他の者に委託しなければなりません。

資産運用会社の概要

名 称：森トラスト・アセットマネジメント株式会社
 (金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第407号/社団法人投資信託協会会員)
 所 在 地：東京都港区赤坂二丁目11番7号
 代表取締役社長：堀野 郷
 設 立：平成12年2月28日
 資 本 金：4億円
 主たる事業内容：投資法人の資産の運用

組織図



株主構成

名称	所有株式数の比率
森トラスト株式会社	65.0%
株式会社パルコ	10.0%
株式会社損害保険ジャパン	10.0%
株式会社三井住友銀行	5.0%
株式会社三菱東京UFJ銀行	5.0%
株式会社みずほコーポレート銀行	5.0%
合計	100.0%

資産運用の概況

1. 投資法人の運用状況等の推移

期 決算年月	単位	第17期 平成22年9月	第18期 平成23年3月	第19期 平成23年9月	第20期 平成24年3月	第21期 平成24年9月
営業収益 ^(注1)	千円	9,027,321	8,886,297	8,801,972	9,014,244	8,786,331
(うち不動産賃貸事業収益)	千円	(8,842,291)	(8,886,297)	(8,801,972)	(8,767,368)	(8,786,331)
営業費用	千円	2,970,623	2,910,165	3,304,913	3,257,869	3,222,979
(うち不動産賃貸事業費用)	千円	(2,563,786)	(2,515,224)	(2,904,056)	(2,847,697)	(2,835,289)
営業利益	千円	6,056,697	5,976,132	5,497,059	5,756,374	5,563,352
経常利益	千円	4,860,112	4,972,765	4,555,228	4,868,920	4,753,544
当期純利益 ^(a)	千円	4,859,116	4,957,561	4,554,218	4,817,376	4,752,608
総資産額 ^(b)	千円	294,374,700	288,535,101	288,937,157	289,933,751	296,515,837
(対前期比)	%	(+40.4)	(△2.0)	(+0.1)	(+0.3)	(+2.3)
有利子負債額 ^(c)	千円	138,100,000	132,400,000	133,200,000	134,000,000	139,825,000
(対前期比)	%	(+48.8)	(△4.1)	(+0.6)	(+0.6)	(+4.3)
純資産額 ^(d)	千円	141,468,780	141,567,224	141,163,830	141,427,008	141,459,649
(対前期比)	%	(+39.7)	(+0.1)	(△0.3)	(+0.2)	(+0.0)
出資総額	千円	136,609,600	136,609,600	136,609,600	136,609,600	136,609,600
(対前期比)	%	(+40.0)	(-)	(-)	(-)	(-)
発行済投資口数 ^(e)	口	242,000	242,000	242,000	242,000	242,000
1口当たり純資産額 ^{(d)/(e)}	円	584,581	584,988	583,321	584,409	584,544
分配総額 ^(f)	千円	4,859,118	4,957,612	4,554,198	4,719,968	4,752,638
1口当たり分配金額 ^{(f)/(e)}	円	20,079	20,486	18,819	19,504	19,639
(うち1口当たり利益分配金)	円	(20,079)	(20,486)	(18,819)	(19,504)	(19,639)
(うち1口当たり利益超過分配金)	円	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
総資産経常利益率 ^(注2)	%	1.9	1.7	1.6	1.7	1.6
年換算値	%	3.9	3.4	3.2	3.4	3.2
自己資本利益率 ^(注2)	%	4.0	3.5	3.2	3.4	3.4
年換算値	%	8.0	7.0	6.4	6.8	6.7
自己資本比率 ^{(d)/(b)}	%	48.1	49.1	48.9	48.8	47.7
(対前期比増減)	%	(△0.2)	(+1.0)	(△0.2)	(△0.1)	(△1.1)
期末総資産有利子負債比率 ^{(c)/(b)}	%	46.9	45.9	46.1	46.2	47.2
配当性向 ^(注3) ^{(f)/(a)}	%	100.0	100.0	99.9	97.9	100.0
【その他参考情報】						
投資物件数	件	13	13	13	13	14
総賃貸可能面積 ^(注4)	m ²	502,850	502,850	502,850	463,293	469,287
期末稼働率 ^(注5)	%	98.5	98.9	99.5	99.5	99.5
賃貸NOI(Net Operating Income) ^(注2)	千円	7,625,744	7,718,753	7,239,132	7,211,768	7,256,910

(注1) 営業収益等には、消費税等は含まれていません。

(注2) 記載した指標は以下の方法により算定しています。

総資産経常利益率=経常利益 / [(期首総資産額+期末総資産額) ÷ 2] × 100

自己資本利益率=当期純利益 / [(期首純資産額+期末純資産額) ÷ 2] × 100

賃貸NOI=不動産賃貸事業収益-不動産賃貸事業費用+減価償却費

(注3) 配当性向については小数点第2位を切り捨てて表示しています。

(注4) 総賃貸可能面積は小数点第1位を切り捨てて表示しています。

(注5) 稼働率は決算日時点における総賃貸可能面積に占める賃貸面積の割合を記載しています。

2. 当期の資産の運用の経過

(1) 投資法人の主な推移

本投資法人は、投資信託及び投資法人に関する法律に基づき、森トラスト・アセットマネジメント株式会社（平成15年11月1日に日本総合ファンド株式会社より商号変更）を設立企画人として、平成13年10月2日に設立されました。

平成14年3月28日に事業用借地契約にかかる土地「フレスポ稲毛」（信託受益権）の取得を皮切りに、運用を開始しました。

以降、着実に資産規模を拡大し、平成16年2月13日に東京証券取引所不動産投資信託証券市場に上場（銘柄コード8961）しました。

当期末現在の本投資法人の資産総額は296,515百万円となり、合計14物件の保有不動産を運用しています。

(2) 投資環境と運用実績

当期の日本経済は、前半は震災以降の復旧・復興による景気の下支えにより緩やかな回復基調をたどっていたところ、長期化する欧州債務問題や中国経済成長の減速等、世界経済の低迷から外需が伸び悩み、後半はやや横ばいの状況で推移しました。

不動産流通市場は、前期から引き続き市場参加者の投資意欲は高く、資金調達環境も良好である中、積極的な投資が行われ、利回りの高い全国主要都市の中小規模物件売買が目立った一方、大規模優良物件の取引は依然限定的なものとなりました。

不動産賃貸市場のうち、オフィスビルについては、全国的に需要が底堅く推移し、東京都心部ではハイグレードビルを中心とした新築ビルの大量供給があったために空室率が悪化したものの、全国主要都市では目立った新規供給はなかったために空室率は改善傾向となりました。また、賃料水準については一部の地域に弱みがあるものの、全国的に前期からほぼ横ばいで推移しており、底入れの兆しが見られました。

商業施設のうち大型小売店については、個人消費の緩やかな回復傾向が見られたものの、同業態・異業態間競争の激化や電気料金値上げ等によるコスト増加等、厳しい状況が続きました。

東京の高級賃貸住宅については、震災後外資系企業の撤退により外国人需要は引き続き低迷しており、賃料水準は低水準で推移しました。

ホテルについては、震災や原発事故の影響による訪日外国人の減少や自粛等による宴会需要の一時的な落ち込みから立ち直りつつあるものの、電気料金値上げや原材料価格上昇等によるコスト増加等、依然として厳しい経営環境となりました。

このような投資環境の中、当期の本投資法人は、平成24年7月12日に「天神プライム」（信託受益権、取得価格6,940百万円）を取得してポートフォリオの充実を図ったほか、既存物件においても安定した収益の確保を図るべく運用を行いました。

この結果、当期末現在における本投資法人の保有不動産は14物件、帳簿価額の総額は282,801百万円となり、当期末時点での保有不動産の稼働率は99.5%となりました。

(3) 資金調達の概要

当期においては、期限の到来した既存借入金の返済に充てるため、平成24年4月に12,500百万円、平成24年5月には500百万円、平成24年8月には19,000百万円の借入れを実施しました。

また、平成24年7月に、「天神プライム」の取得資金に充てるため、新たに6,000百万円を借入れにより調達しました。

これらの結果、有利子負債残高は139,825百万円、うち長期借入金（1年以内に返済予定のものは除きます。）は65,475百万円、投資法人債は10,000百万円となっています。なお、期末総資産有利子負債比率は47.2%（前期末46.2%）となっています。

また、平成24年9月30日現在、本投資法人は株式会社日本格付研究所（JCR）からAA（格付の見通し：安定的）の長期優先債務格付を取得しています。

(4) 業績及び分配の概要

このような運用の結果、当期の業績は、営業収益8,786百万円、営業利益5,563百万円となり、そこから借入金にかかる支払利息等を控除した経常利益は4,753百万円、当期純利益は4,752百万円となりました。

また、分配金については、税制の特例（租税特別措置法第67条の15）の適用により、利益分配金の最大額が損金算入されることを企図して、投資口1口当たり分配金が1円未満となる端数部分を除く当期末処分利益の全額を分配することとし、投資口1口当たりの分配金は19,639円となりました。

3. 増資等の状況

当期においては、増資等は行っておらず出資総額等の異動はありません。なお、前期以前の増資等の概要は以下のとおりです。

年月日	摘要	発行済投資口数(口)		出資総額(百万円)		備考
		増減	残高	増減	残高	
平成13年10月2日	私募設立	400	400	200	200	(注1)
平成14年3月27日	私募増資	5,200	5,600	2,600	2,800	(注2)
平成14年7月4日	私募増資	2,600	8,200	1,300	4,100	(注3)
平成14年9月27日	私募増資	4,500	12,700	2,250	6,350	(注4)
平成15年3月27日	私募増資	40,700	53,400	20,350	26,700	(注5)
平成15年9月19日	私募増資	66,600	120,000	33,300	60,000	(注6)
平成15年9月30日	私募増資	40,000	160,000	20,000	80,000	(注6)
平成20年10月1日	第三者割当増資	22,000	182,000	17,600	97,600	(注7)
平成22年5月31日	公募増資	60,000	242,000	39,009	136,609	(注8)

(注1) 1口当たり発行価格500,000円にて本投資法人が設立されました。

(注2) 1口当たり発行価格500,000円にて新規2物件の取得資金の調達を目的とする私募投資口の追加発行を行い、運用を開始しました。

(注3) 1口当たり発行価格500,000円にて新規物件取得の手付資金の調達を目的とする私募投資口の追加発行を行いました。

(注4) 1口当たり発行価格500,000円にて新規物件取得の残金決済資金の調達を目的とする私募投資口の追加発行を行いました。

(注5) 1口当たり発行価格500,000円にて新規3物件の取得資金の調達を目的とする私募投資口の追加発行を行いました。

(注6) 1口当たり発行価格500,000円にて新規物件取得資金及び借入金返済資金の調達を目的とする私募投資口の追加発行を行いました。

(注7) 1口当たり発行価格800,000円にて新規物件取得に伴う借入金の返済資金を調達することを目的とする第三者割当による新投資口の追加発行を行いました。

(注8) 1口当たり発行価格670,800円（引受価額650,160円）にて新規物件取得に伴う借入金の返済資金を調達することを目的とする公募による新投資口の追加発行を行いました。

4. 分配金等の実績

分配金については、税制の特例（租税特別措置法第67条の15）の適用により、利益分配金の最大額が損金算入されることを企図して、投資口1口当たり分配金が1円未満となる端数部分を除く当期末処分利益の全額を分配することとし、投資口1口当たりの分配金は19,639円となりました。

期	第17期	第18期	第19期	第20期	第21期
営業期間	自平成22年4月1日 至平成22年9月30日	自平成22年10月1日 至平成23年3月31日	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	自平成23年10月1日 至平成24年3月31日	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日
当期末処分利益総額	4,859,180千円	4,957,624千円	4,554,230千円	4,817,408千円	4,752,696千円
利益留保額	62千円	12千円	32千円	97,440千円	58千円
金銭の分配金総額 (1口当たり分配金)	4,859,118千円 (20,079円)	4,957,612千円 (20,486円)	4,554,198千円 (18,819円)	4,719,968千円 (19,504円)	4,752,638千円 (19,639円)
うち利益分配金総額 (1口当たり利益分配金)	4,859,118千円 (20,079円)	4,957,612千円 (20,486円)	4,554,198千円 (18,819円)	4,719,968千円 (19,504円)	4,752,638千円 (19,639円)
うち出資払戻総額 (1口当たり出資払戻額)	－千円 (－円)	－千円 (－円)	－千円 (－円)	－千円 (－円)	－千円 (－円)

5. 今後の運用方針及び対処すべき課題

(1) 概況

日本経済の今後については、景気の下支えを担っていた震災復旧・復興需要が徐々に薄れていくことに加え、新たな景気押し上げ要因が乏しく、また世界経済の低迷も続く予想されるため、しばらく横ばいからやや弱含みの状況が続くものと考えられます。

不動産流通市場は、市場参加者の積極的な投資姿勢は持続し、賃料水準の底打ち感も強まっていることから、不動産賃貸市場の本格的回復に先行して売買がより活発化するものと予想されます。

不動産賃貸市場のうち、オフィスビルについては、東京都心部の大量供給が一段落し、賃料の割安感からのグレードアップ移転や集約移転等、底堅い需要に支えられ、緩やかながら空室率は改善していくものと見られます。賃料水準については、底入れの兆しが見られつつありますが、しばらくは現在の横ばい状態が続くと予想され、回復にはなお時間を要するものと見込まれます。

商業施設のうち大型小売店については、個人消費は引き続き底堅く推移するものの、同業態・異業態間競争、エネルギー費用等コスト増加の問題等が懸念されることから、厳しい状況が続くものと予想されます。

東京の高級賃貸住宅については、世界経済の低迷による不透明感が強まる中で、外資系企業の日本再進出による需要の改善、賃料水準の回復の見込みは薄く、今しばらく低迷の状態が続くものと考えられます。

ホテルについては、震災後の復興とともに国内旅行者が増加しているものの、昨今の外交問題により訪日外国人観光客数に陰りが見え始めていることや、円高やコスト増加による影響等から、引き続き動向に注視する必要があります。

(2) 保有不動産の運用戦略

本投資法人は、保有不動産の賃貸借契約形態において、市場賃料水準の下落が直ちに本投資法人の保有不動産の収益に大きな影響を与えることがないよう、引き続き中長期で固定賃料とする定期建物賃貸借契約の比重を一定の割合で確保していきます。

但し、新規賃貸借契約の締結の際には、契約期間、賃料の中長期固定化等に関して、対象不動産の立地や特徴を見極めたうえで、適宜検討を行い、収益の最大化を目指します。

また、保有不動産の運営管理については、市場競争力を維持向上させ、安定的な運用が可能となるよう、以下の方針にて行います。

- ① 入居しているテナント満足度向上に注力し、各保有不動産の特徴を見極めたうえで、予防保全・安全管理の徹底及びテナントとのカスタマーリレーションの充実等に留意し、本投資法人の保有不動産の高稼働率の維持に努めます。
- ② 新規賃貸借契約の締結に際しては、将来の賃貸収益を確実なものにするため、中長期の定期建物賃貸借契約、その他賃料の固定化または契約期間の長期化に配慮した賃貸借契約を締結するよう努めます。また、安定的な内部成長が期待できる保有不動産については、インカムゲインの増加を取り込めるような契約も取り入れます。
- ③ 保有不動産の経年劣化や築年数を考慮のうえ、老朽化した設備等に関しては更新を行い、さらに、競合物件に引けをとらない市場競争力を高めるため、積極的な投資を行い、安定的な稼働率の維持に努めます。

(3) 新規投資不動産の投資戦略

本投資法人の資産規模の拡大及び新規投資不動産取得のため、物件情報ルートのさらなる開拓・深耕を図り、質の高い物件情報の収集に努めることに注力しつつ、以下の投資戦略のもとで投資を行うことを基本とします。

- ① 本投資法人は、投資不動産の用途にかかわらず、「東京都心部」を中心に資産総額の60～80%を目途に投資を行います。また、「その他」の地域に立地する投資不動産であっても、例えば、交通結節点等の利便性が高いオフィス集積度の高い地域に立地しているオフィスビルや、商圏内で高い競争力を有する優良商業施設等については、投資を行います。
- ② 本投資法人は、「オフィスビル」を用途とする投資不動産に対し、資産総額の70～90%を目途に投資を行うとともに、「オフィスビル」以外の投資不動産として、「商業施設」（資産総額の10～30%）及び「その他」（資

産総額の0～10%)に対しても併せて投資を行うものとします。但し、「その他」の用途としては、当面の間、住宅及びホテルに限るものとします。

- ③ 本投資法人は、中長期の賃貸借契約を賃借人と締結することを基本とします。また、可能な限り、定期建物賃貸借による契約、その他賃料の固定化または契約期間の長期化に配慮した賃貸借契約を締結するように努めます。なお、投資不動産の賃貸にかかる契約形態については、投資不動産を直接テナントに賃貸する形態のほか、テナントとの間に賃借人（マスターレシー）を介在させ、マスターレシーに対し賃貸する形態（マスターリース契約）がありますが、マスターリース契約については、対象不動産の規模、用途、入居テナント等の特性を吟味したうえで一定の効果が認められる場合には積極的に検討するものとします。

(4) 財務戦略等

資金調達コストの低減及び金融環境の変化による影響の軽減に配慮し、短期借入金と長期借入金をバランス良く調達するよう努めます。また、投資法人債の発行も検討します。

なお、資金調達先の選定に際しては、複数の適格機関投資家と交渉のうえ、諸条件を比較し決定します。

6. 決算後に生じた重要な事実

本投資法人が保有する「丸紅大阪本社ビル」(注)において、テナントとの定期建物賃貸借契約が平成24年9月30日をもって期間満了となったことに伴い、テナントが所有していたビル運営上必要な建物附属設備等の固定資産を平成24年10月1日に無償で譲り受けました。

この結果、平成25年3月期に固定資産受贈益（約740百万円）を特別利益に計上する見込みです。

(注)「丸紅大阪本社ビル」は、平成24年10月1日付で「大阪丸紅ビル」に名称変更しています。以下同じです。

(参考情報)

本投資法人は、当期決算日（平成24年9月30日）以降に以下の物件を取得しました。

コーナン相模原西橋本店

(i) 取得の概要

取得資産：不動産

土地 所有権

建物 所有権

取得価格：7,460百万円（但し、取得諸経費、固定資産税、都市計画税及び消費税等を除きます。）

取得日：平成24年10月18日

売主：ケーエージー・トゥエルブ・インベストメント特定目的会社

(ii) 取得資産の概要

所在地（住居表示）：相模原市緑区西橋本五丁目4番3号

用途：商業施設

地積：19,878.57㎡

延床面積：40,283.77㎡

構造：鉄骨造陸屋根／5階建

建築時期：平成17年8月

(iii) 賃貸状況の概要

テナント総数：1

総賃貸可能面積：40,283.77㎡

総賃貸面積：40,283.77㎡

稼働率：100%

投資法人の概況

1. 出資の状況

期	第17期 平成22年9月30日現在	第18期 平成23年3月31日現在	第19期 平成23年9月30日現在	第20期 平成24年3月31日現在	第21期 平成24年9月30日現在
発行可能投資口総口数	2,000,000口	2,000,000口	2,000,000口	2,000,000口	2,000,000口
発行済投資口の総数	242,000口	242,000口	242,000口	242,000口	242,000口
出資総額	136,609百万円	136,609百万円	136,609百万円	136,609百万円	136,609百万円
投資主数	9,966人	8,717人	8,515人	8,985人	9,237人

2. 投資口に関する事項

当期末現在の発行済投資口の総数に対し、保有する投資口の比率が高い上位10名（社）は以下のとおりです。

氏名または名称	住所	所有 投資口数	発行済投資口の 総数に対する所 有口数の割合
株式会社森トラスト・ホールディングス	東京都港区虎ノ門2丁目3-17	60,000口	24.79%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	47,295口	19.54%
野村信託銀行株式会社（投信口）	東京都千代田区大手町2丁目2-2	13,439口	5.55%
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	13,090口	5.41%
株式会社MAプラットフォーム	東京都港区虎ノ門2丁目3-17	10,000口	4.13%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	7,921口	3.27%
NOMURA BANK (LUXEMBOURG) S. A.	BATIMENT A, 33, RUE DE GASPERICH, L-5826, LUXEMBOURG	6,522口	2.70%
株式会社北洋銀行	北海道札幌市中央区大通西3丁目7	3,831口	1.58%
メットライフアリコ生命保険株式会社 ジェイエイカンパニー ジェイピーワイ	東京都墨田区太平4丁目1-3	3,464口	1.43%
ジブラルタ生命保険株式会社 (一般勘定J-REIT口)	東京都千代田区永田町2丁目13-10	3,119口	1.29%
合計		168,681口	69.70%

3. 役員等に関する事項

当期の役員等の氏名または名称、主な兼職等及び当該営業期間における役職毎の報酬の総額は以下のとおりです。

役職名	役員等の氏名 または名称	主な兼職等	当該営業期間における 役職毎の報酬の総額
執行役員	堀野 郷	森トラスト・アセットマネジメント株式会社 代表取締役社長	3,180千円
監督役員	田中 清	銀座ファースト法律事務所 所長 弁護士	6,000千円
	今尾 金久	今尾公認会計士事務所 代表	
		税理士法人タックス・アイズ 代表社員	
		東京スピリット投資法人 監督役員	
会計監査人	新日本有限責任監査法人	—	11,280千円

(注) 執行役員及び監督役員は、いずれも本投資法人の投資口を自己または他人の名義で所有していません。
また、監督役員は、上記記載以外の他の法人の役員である場合がありますが、上記を含めていずれも本投資法人と利害関係はありません。

4. 資産運用会社、資産保管会社及び一般事務受託者

当期末現在の資産運用会社、資産保管会社及び一般事務受託者の名称は以下のとおりです。

委託区分	氏名または名称
資産運用会社	森トラスト・アセットマネジメント株式会社
資産保管会社	三井住友信託銀行株式会社
一般事務受託者（投資主名簿等の管理に関する事務等）	三井住友信託銀行株式会社
一般事務受託者（会計等に関する事務）	三井住友信託銀行株式会社
一般事務受託者（投資法人債に関する事務）	三井住友信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社
一般事務受託者（機関の運営に関する事務）	森トラスト・アセットマネジメント株式会社

投資法人の運用資産の状況

1. 本投資法人の財産の構成

資産の種類	地域区分	第20期 平成24年3月31日現在		第21期 平成24年9月30日現在	
		保有総額(注1) (百万円)	対総資産比率 (%)	保有総額(注1) (百万円)	対総資産比率 (%)
不動産	東京都心部(注2)	175,578	60.6	174,813	59.0
	その他(注3)	41,215	14.2	41,098	13.9
信託不動産	東京都心部(注2)	40,136	13.8	40,085	13.5
	その他(注3)	19,945	6.9	26,803	9.0
小計		276,876	95.5	282,801	95.4
その他の資産		13,056	4.5	13,714	4.6
資産総額計		289,933	100.0	296,515	100.0

(注1) 保有総額は、決算日時点の貸借対照表計上額（不動産及び信託不動産については、減価償却後の帳簿価額）によっています。

(注2) 千代田区・中央区・港区・品川区・渋谷区・新宿区

(注3) 首都圏（東京都（東京都心部を除く）・神奈川県・埼玉県）及びその他主要都市

2. 主要な保有資産

当期末現在、本投資法人が保有する主要な資産（帳簿価額上位10物件）の概要は以下のとおりです。

不動産等の名称	帳簿価額 (百万円)	賃貸可能面積 (㎡)	賃貸面積 (㎡)	稼働率 (%)	対総賃貸事業 収益比率 (%)	主たる用途
東京汐留ビルディング	108,517	(注1)95,697.03	(注2)95,697.03	100.0	31.8	オフィスビル
ONビル	40,085	20,654.60	20,654.60	100.0	(注3)	オフィスビル
新橋駅前MTRビル	17,740	8,055.00	8,055.00	100.0	5.2	商業施設
ホテルオークラ神戸	17,622	72,246.86	72,246.86	100.0	7.3	ホテル
銀座MTRビル	16,488	(注1)13,637.38	(注2)13,629.99	99.9	(注3)	オフィスビル
三田MTビル	15,793	15,419.88	15,419.88	100.0	8.2	オフィスビル
大崎MTビル(注4)	12,978	(注1)22,634.06	(注2)22,634.06	100.0	5.0	オフィスビル
丸紅大阪本社ビル	12,094	41,574.47	41,574.47	100.0	6.8	オフィスビル
イトーヨーカドー新浦安店	11,624	57,621.38	57,621.38	100.0	4.3	商業施設
イトーヨーカドー湘南台店	10,585	53,393.66	53,393.66	100.0	4.5	商業施設
合計	263,531	400,934.32	400,926.93	99.9	91.4	—

(注1) 「東京汐留ビルディング」の賃貸可能面積は、建物の賃貸可能面積（191,394.06㎡）に本投資法人の共有持分（100分の50）を乗じた面積を記載しています。「銀座MTRビル」の賃貸可能面積は、本投資法人が保有する専有部分のうち賃貸の用に供することが可能な部分の面積及び他の共有者（新橋演舞場株式会社）との共有部分のうち賃貸の用に供することが可能な部分に本投資法人の共有持分（1,000分の682）を乗じた面積の合計を記載しています。また、「大崎MTビル」の賃貸可能面積は、建物の賃貸可能面積（26,980.68㎡）に本投資法人の共有持分（1,000,000分の838,899）を乗じた面積を記載しています。

(注2) 「東京汐留ビルディング」の賃貸面積については、建物の賃貸面積（191,394.06㎡）に本投資法人の共有持分（100分の50）を乗じた面積を記載しています。「銀座MTRビル」の賃貸面積は、本投資法人が保有する専有部分のうち賃貸借契約が締結され賃貸が行われている面積及び他の共有者（新橋演舞場株式会社）との共有部分のうち賃貸借契約が締結され賃貸が行われている部分に本投資法人の共有持分（1,000分の682）を乗じた面積の合計を記載しています。また、「大崎MTビル」の賃貸面積は、建物の賃貸面積（26,980.68㎡）に本投資法人の共有持分（1,000,000分の838,899）を乗じた面積を記載しています。

(注3) 「ONビル」及び「銀座MTRビル」の対総賃貸事業収益比率については、やむを得ない事情により開示していません。

(注4) 「大崎MTビル」は、賃料収入がサブリース契約の賃料に連動する仕組みのマスターリース契約を採用していますが、上記表中の当該物件の賃貸可能面積、賃貸面積及び稼働率については、マスターリース契約に基づく賃貸可能面積、賃貸面積及び稼働率を記載しています。なお、当期末時点におけるサブリース契約に基づく稼働率は96.9%です。

3. 組入資産明細

当期末現在、本投資法人の保有不動産（不動産または不動産を主な信託財産とする信託受益権）の概要は以下のとおりです。

不動産等の名称	所在地 (住居表示)	所有形態	賃貸可能 面積 (㎡)	期末算定 価額(注1) (百万円)	帳簿価額 (百万円)
銀座MTRビル	東京都中央区銀座六丁目18番2号	不動産	(注2)13,637.38	15,500	16,488
三田MTビル	東京都港区三田三丁目13番12号	不動産	15,419.88	16,000	15,793
丸紅大阪本社ビル	大阪市中央区本町二丁目5番7号	不動産	41,574.47	8,330	12,094
新横浜TECHビル	A館:横浜市港北区新横浜三丁目9番18号 B館:横浜市港北区新横浜三丁目9番1号	不動産	18,359.46	4,130	6,794
大崎MTビル	東京都品川区北品川五丁目9番11号	不動産	(注2)22,634.06	14,900	12,978
ONビル	東京都品川区北品川五丁目9番12号	不動産信託受益権	20,654.60	31,600	40,085
東京汐留ビルディング	東京都港区東新橋一丁目9番1号	不動産	(注2)95,697.03	113,800	108,517
天神プライム	福岡市中央区天神二丁目7番21号	不動産信託受益権	5,993.80	7,310	6,987
イトーヨーカドー湘南台店	神奈川県藤沢市石川六丁目2番地の1	不動産	53,393.66	11,900	10,585
フレスポ稲毛	千葉県稲毛区長沼原町731番17(注3)	不動産信託受益権	39,556.71	2,690	2,193
イトーヨーカドー新浦安店	千葉県浦安市明海四丁目1番1号	不動産	57,621.38	11,200	11,624
新橋駅前MTRビル	東京都港区新橋二丁目8番5号	不動産	8,055.00	18,800	17,740
パークレーンプラザ	東京都渋谷区神宮前二丁目30番32号	不動産	4,443.03	3,010	3,293
ホテルオークラ神戸	神戸市中央区波止場町2番1号	不動産信託受益権	72,246.86	15,400	17,622
合計			469,287.32	274,570	282,801

(注1) 期末算定価額は、本投資法人の規約及び内閣府令「投資法人の計算に関する規則」に基づき、不動産鑑定士が収益還元法により求めた価額（平成24年9月30日を価格時点とし、一般財団法人日本不動産研究所、日本土地建物株式会社または株式会社立地評価研究所が求めた価額）を記載しています。

(注2) 「銀座MTRビル」の賃貸可能面積については、本投資法人が保有する専有部分のうち賃貸の用に供することが可能な部分の面積及び他の共有者（新橋演舞場株式会社）との共有部分のうち賃貸の用に供することが可能な部分に本投資法人の共有持分（1,000分の682）を乗じた面積の合計を記載しています。また、「大崎MTビル」の賃貸可能面積は、建物の賃貸可能面積（26,980.68㎡）に本投資法人の共有持分（1,000,000分の838,899）を乗じた面積を記載しています。「東京汐留ビルディング」の賃貸可能面積は、建物の賃貸可能面積（191,394.06㎡）に本投資法人の共有持分（100分の50）を乗じた面積を記載しています。

(注3) 「フレスポ稲毛」の所在地は、土地の所在地番を記載しています。

本投資法人の保有不動産毎の賃貸事業の推移は以下のとおりです。

不動産等の名称	第20期 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)				第21期 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)			
	テナント 総数 (期末時点) (件)	稼働率 (期末時点) (%)	不動産賃貸 事業収益 (期間中) (千円)	対総賃貸事 業収益比率 (%)	テナント 総数 (期末時点) (件)	稼働率 (期末時点) (%)	不動産賃貸 事業収益 (期間中) (千円)	対総賃貸事 業収益比率 (%)
銀座MTRビル	5	99.9	(注1)	(注1)	5	99.9	(注1)	(注1)
三田MTビル	3	100.0	749,486	8.5	3	100.0	718,279	8.2
丸紅大阪本社ビル	1	100.0	600,177	6.8	1	100.0	600,177	6.8
新横浜TECHビル	8	89.5	397,577	4.5	7	89.5	404,149	4.6
大崎MTビル	(注2)1	(注2)100.0	430,909	4.9	(注2)1	(注2)100.0	437,856	5.0
ONビル	1	100.0	(注1)	(注1)	1	100.0	(注1)	(注1)
東京汐留ビルディング	1	100.0	2,795,000	31.9	1	100.0	2,795,000	31.8
天神プライム	-	-	-	-	(注3)14	(注3)100.0	124,389	1.4
イトーヨーカドー湘南台店	1	100.0	395,045	4.5	1	100.0	395,045	4.5
フレスポ稲毛	1	100.0	218,058	2.5	1	100.0	123,745	1.4
イトーヨーカドー新浦安店	1	100.0	378,165	4.3	1	100.0	378,165	4.3
新橋駅前MTRビル	1	100.0	459,000	5.2	1	100.0	459,000	5.2
パークレーンプラザ	(注4)17	96.7	99,689	1.1	(注4)17	94.1	101,764	1.2
ホテルオークラ神戸	1	100.0	646,208	7.4	1	100.0	639,165	7.3
合計	42	99.5	8,767,368	100.0	55	99.5	8,786,331	100.0

(注1) 「銀座MTRビル」及び「ONビル」の不動産賃貸事業収益及び対総賃貸事業収益比率については、やむを得ない事情により開示していません。
(注2) 「大崎MTビル」は、賃料収入がサブリース契約の賃料に連動する仕組みのマスターリース契約を採用していますが、上記表中の当該物件のテナント総数及び稼働率については、マスターリース契約に基づくテナント総数及び稼働率の推移を記載しています。なお、サブリース契約に基づくテナント総数及び稼働率の推移は以下のとおりです。

不動産等の名称	第20期 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)		第21期 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	
	テナント総数 (期末時点) (件)	稼働率 (期末時点) (%)	テナント総数 (期末時点) (件)	稼働率 (期末時点) (%)
大崎MTビル	8	92.7	9	96.9

(注3) 「天神プライム」は、本投資法人が信託受託者との間で締結したマスターリース契約に基づき土地及び建物を借り受け、本投資法人から各テナントに対してサブリースをする仕組みを採用しています。上記表中の当該物件のテナント総数及び稼働率については、サブリース契約に基づくテナント総数及び稼働率を記載しています。

(注4) 「パークレーンプラザ」は、一のテナントと複数住戸の賃貸借契約を締結している場合、住戸数をテナント数として算定しています。

4. その他資産の状況

当期末現在、本投資法人が保有するその他資産の状況は以下のとおりです。

特定資産の種類	数量	帳簿価額(千円)		評価額(千円)		評価損益 (千円)	備考
		単価	金額	単価	金額		
金銭債権(注)	1件	3,152	3,152	3,152	3,152	-	-
合計	-	-	3,152	-	3,152	-	-

(注) 一般社団法人汐留シオサイト・タウンマネジメントに対する基金の返還請求権です。

保有不動産の資本的支出

1. 資本的支出の予定

保有不動産について、現在計画または実施している改修工事等に伴い本投資法人が負担する資本的支出の主な予定は以下のとおりです。

なお、下記工事予定金額には、会計上の費用に区分経理される部分が含まれています。

不動産等の名称 (所在)	目的	予定期間	工事予定金額 (百万円)		
			総額	当期(第21期) 支払額	既支払総額 (当期含む)
銀座MTRビル (東京都中央区)	ファンコイルユニット 更新工事	自 平成24年5月 至 平成24年11月	39	—	—
三田MTビル (東京都港区)	セキュリティ工事	自 平成24年10月 至 平成24年11月	7	—	—
丸紅大阪本社ビル (大阪市中央区)	非常用照明・誘導灯更新 工事	自 平成25年1月 至 平成25年3月	18	—	—
丸紅大阪本社ビル (大阪市中央区)	喫煙室設置工事	自 平成24年8月 至 平成24年10月	13	—	—
丸紅大阪本社ビル (大阪市中央区)	貸会議室化工事	自 平成24年10月 至 平成24年10月	6	—	—
ONビル (東京都品川区)	防災設備更新工事	自 平成24年10月 至 平成25年3月	56	—	—
イトーヨーカドー新浦安店 (千葉県浦安市)	排水主管更新工事	自 平成25年1月 至 平成25年2月	5	—	—
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	エレベーター改修工事	自 平成24年11月 至 平成25年3月	22	—	—
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	各所配管更新工事	自 平成24年11月 至 平成25年3月	14	—	—
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	チャペル空調設備更新工事	自 平成24年11月 至 平成25年3月	13	—	—
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	厨房冷凍機更新工事	自 平成24年11月 至 平成25年3月	10	—	—
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	エスカレーター改修工事	自 平成24年11月 至 平成25年3月	9	—	—
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	ファンコイルユニット 更新工事	自 平成24年11月 至 平成25年3月	8	—	—
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	電気室配電盤ブレーカー 更新工事	自 平成24年11月 至 平成25年3月	5	—	—

2. 期中の資本的支出

保有不動産について、当期中に本投資法人が負担した資本的支出に該当した主な工事は以下のとおりです。

不動産等の名称 (所在)	目的	実施期間	工事金額 (百万円)
丸紅大阪本社ビル (大阪市中央区)	各所積算電力計設置工事	自 平成24年7月 至 平成24年9月	42
丸紅大阪本社ビル (大阪市中央区)	B2階事務所化工事	自 平成24年4月 至 平成24年8月	20
丸紅大阪本社ビル (大阪市中央区)	セキュリティ工事	自 平成24年6月 至 平成24年9月	20
丸紅大阪本社ビル (大阪市中央区)	14階事務所化工事	自 平成24年7月 至 平成24年9月	7
新横浜TECHビル (横浜市港北区)	ハロン消火設備更新工事	自 平成23年10月 至 平成24年7月	7
ONビル (東京都品川区)	熱源自動制御機器更新工事	自 平成24年7月 至 平成24年9月	19
ONビル (東京都品川区)	階段通路誘導灯更新工事	自 平成24年4月 至 平成24年5月	5
イトーヨーカドー新浦安店 (千葉県浦安市)	立体駐車場自動火災報知設備 更新工事	自 平成24年8月 至 平成24年9月	10
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	エレベーター改修工事	自 平成24年5月 至 平成24年9月	16
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	階段通路灯更新工事	自 平成24年5月 至 平成24年9月	14
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	エスカレーター改修工事	自 平成24年5月 至 平成24年8月	8
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	各所配管更新工事	自 平成24年1月 至 平成24年4月	5
その他	機能更新等	自 平成24年4月 至 平成24年9月	50
合計			229

3. 長期修繕計画のために積立てた金銭

本投資法人は、中長期的な資本的支出に備え、ポートフォリオ全体の減価償却費と修繕計画を考慮して、修繕積立金を以下のとおり積み立てています。

なお、「フレスポ稲毛」については、借地権付土地(底地)を信託財産とする信託受益権であり、本投資法人は建物等を保有していないため、修繕積立金の積み立てを行っていません。

(単位：百万円)

期 (営業期間)	第17期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日	第18期 自平成22年10月1日 至平成23年3月31日	第19期 自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	第20期 自平成23年10月1日 至平成24年3月31日	第21期 自平成24年4月1日 至平成24年9月30日
当期首積立金残高	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
当期積立額	237	181	136	226	229
当期積立金取崩額	237	181	136	226	229
次期繰越額	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000

費用・負債の状況

1. 運用等に係る費用明細

(単位：千円)

項目	第20期		第21期	
	自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日		自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	
(a) 資産運用報酬(注)	277,371		275,759	
(b) 資産保管手数料	13,030		13,177	
(c) 一般事務委託手数料	42,860		43,997	
(d) 役員報酬	9,180		9,180	
(e) その他費用	67,730		45,574	
合計	410,172		387,690	

(注) 資産運用報酬には、上記記載金額のほか、個々の不動産の取得価額に算入した物件取得にかかる資産運用報酬及び物件譲渡にかかる資産運用報酬が以下のとおり発生しています。

(単位：千円)

項目	第20期		第21期	
	自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日		自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	
物件取得にかかる資産運用報酬	—		27,760	
物件譲渡にかかる資産運用報酬	1,225		—	

2. 借入状況

当期末現在における借入金の状況は以下のとおりです。

区分	借入先	借入日	当期末 残高 (百万円)	当期末 残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限	返済方法	用途	摘要
短期借入金	株式会社みずほコーポレート銀行	H23. 4. 13	3,500	—	—	—			
	株式会社りそな銀行	H23. 5. 31	500	—	—	—			
	三菱UFJ信託銀行株式会社	H23. 8. 31	5,000	—	—	—			
	三井住友信託銀行株式会社	H23. 8. 31	2,000	—	—	—			
	株式会社みずほコーポレート銀行	H23. 8. 31	1,500	—	—	—			
	株式会社りそな銀行	H23. 8. 31	1,000	—	—	—			
	株式会社三菱東京UFJ銀行	H24. 2. 29	5,000	5,000	0.48	H25. 2. 28			
	株式会社三井住友銀行	H24. 7. 12	—	2,000	0.43	H25. 2. 28			
	株式会社みずほコーポレート銀行	H24. 2. 29	1,500	1,500	0.48	H25. 2. 28			
	株式会社みずほコーポレート銀行	H24. 7. 12	—	1,000	0.43	H25. 2. 28			
	三菱UFJ信託銀行株式会社	H24. 7. 12	—	1,000	0.43	H25. 2. 28			
	株式会社三菱東京UFJ銀行	H24. 7. 12	—	1,000	0.43	H25. 2. 28	期限一括	(注1)	無担保 無保証 変動金利
	株式会社三井住友銀行	H24. 2. 29	1,000	1,000	0.43	H25. 2. 28			
	三井住友信託銀行株式会社	H24. 2. 29	1,000	1,000	0.48	H25. 2. 28			
	株式会社福岡銀行	H24. 7. 12	—	1,000	0.43	H25. 2. 28			
	みずほ信託銀行株式会社	H24. 2. 29	500	500	0.48	H25. 2. 28			
	株式会社みずほコーポレート銀行	H24. 4. 13	—	4,000	0.48	H25. 4. 12			

区分	借入先	借入日	当期末 残高 (百万円)	当期末 残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限	返済方法	用途	摘要
短期借入金	株式会社りそな銀行	H24. 5. 31	—	500	0.48	H25. 5. 31			
	三菱UFJ信託銀行株式会社	H24. 8. 31	—	5,000	0.48	H25. 8. 30	期限一括	(注1)	無担保 無保証 変動金利
	株式会社みずほコーポレート銀行	H24. 8. 31	—	1,500	0.48	H25. 8. 30			
	株式会社りそな銀行	H24. 8. 31	—	1,000	0.48	H25. 8. 30			
	小計	—	22,500	27,000	—	—	—	—	—
	三菱UFJ信託銀行株式会社	H22. 4. 13	5,000	—	—	—			
	三井住友信託銀行株式会社	H22. 4. 13	4,000	—	—	—			
	株式会社みずほコーポレート銀行	H21. 8. 31	4,000	—	—	—	—	—	—
	三菱UFJ信託銀行株式会社	H21. 8. 31	3,000	—	—	—			
	株式会社日本政策投資銀行	H21. 3. 25	2,550	—	—	—			
長期借入金	株式会社三井住友銀行	H22. 2. 26	5,000	5,000	1.58	H25. 2. 28			
	株式会社みずほコーポレート銀行	H22. 2. 26	3,000	3,000	1.58	H25. 2. 28			
	三菱UFJ信託銀行株式会社	H22. 2. 26	3,000	3,000	1.58	H25. 2. 28			
	三井住友信託銀行株式会社	H22. 2. 26	2,500	2,500	1.58	H25. 2. 28			
	株式会社あおぞら銀行	H22. 3. 12	2,000	2,000	1.56	H25. 3. 12	期限一括		
	オリックス銀行株式会社	H22. 3. 19	2,000	2,000	1.50	H25. 3. 19			
	株式会社みずほコーポレート銀行	H22. 4. 13	5,000	5,000	1.59	H25. 4. 12			
	株式会社三井住友銀行	H22. 4. 13	5,000	5,000	1.59	H25. 4. 12			
	株式会社三菱東京UFJ銀行	H22. 8. 31	6,000	6,000	1.38	H25. 8. 30			
	株式会社日本政策投資銀行	H21. 9. 25	1,750	1,700	1.83	H25. 8. 30	(注2)		
	株式会社みずほコーポレート銀行	H22. 8. 31	1,000	1,000	1.38	H25. 8. 30			
	株式会社三井住友銀行	H22. 8. 31	1,000	1,000	1.38	H25. 8. 30			
	株式会社三井住友銀行	H22. 4. 13	5,000	5,000	1.69	H25.10.11			
	株式会社みずほコーポレート銀行	H22. 4. 13	4,000	4,000	1.69	H25.10.11	期限一括	(注1)	無担保 無保証 固定金利
	株式会社あおぞら銀行	H22. 4. 13	1,000	1,000	1.69	H25.10.11			
	株式会社福岡銀行	H23. 1. 25	2,000	2,000	1.04	H26. 1. 24			
	第一生命保険株式会社	H19. 2. 28	2,500	2,500	1.92	H26. 2. 28			
	株式会社八十二銀行	H23. 2. 28	1,000	1,000	1.04	H26. 2. 28			
	株式会社日本政策投資銀行	H22. 3. 12	2,700	2,625	1.69	H26. 3. 12	(注3)		
	株式会社三井住友銀行	H22. 4. 13	5,000	5,000	1.79	H26. 4. 11			
株式会社日本政策投資銀行	H22. 4. 13	2,000	2,000	1.79	H26. 4. 11				
株式会社福岡銀行	H23. 5. 31	1,000	1,000	0.85	H26. 5. 30				
三井住友信託銀行株式会社	H23. 8. 31	5,500	5,500	0.79	H26. 8. 29				
三菱UFJ信託銀行株式会社	H23. 8. 31	1,000	1,000	0.79	H26. 8. 29	期限一括			
株式会社福岡銀行	H24. 1. 31	500	500	0.78	H27. 1. 30				
株式会社日本政策投資銀行	H20. 8. 29	3,000	3,000	1.96	H27. 2. 27				
三井住友信託銀行株式会社	H24. 2. 29	2,000	2,000	0.76	H27. 2. 27				
三菱UFJ信託銀行株式会社	H24. 4. 13	—	4,500	0.76	H27. 4. 13				
三井住友信託銀行株式会社	H24. 4. 13	—	4,000	0.76	H27. 4. 13				

期中の売買状況

区分	借入先	借入日	当期末 残高 (百万円)	当期末 残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限	返済方法	使 途	摘 要
長期借入金	三菱UFJ信託銀行株式会社	H24.8.31	—	3,000	0.71	H27.8.31	期限一括	(注1)	無担保 無保証 固定金利
	株式会社みずほコーポレート銀行	H23.8.31	1,500	1,500	0.89	H27.8.31			
	日本生命保険相互会社	H24.8.31	—	500	0.71	H27.8.31			
	日本生命保険相互会社	H22.10.29	1,000	1,000	1.55	H27.10.30			
	株式会社三菱東京UFJ銀行	H23.2.28	1,000	1,000	1.38	H28.2.29			
	三井住友信託銀行株式会社	H24.8.31	—	2,000	0.78	H28.8.31			
	株式会社みずほコーポレート銀行	H23.8.31	1,000	1,000	1.01	H28.8.31			
	日本生命保険相互会社	H23.2.28	500	500	1.48	H28.8.31			
	株式会社福岡銀行	H24.1.31	500	500	0.96	H29.1.31			
	株式会社日本政策投資銀行	H24.2.29	2,000	2,000	0.97	H29.2.28			
	株式会社みずほコーポレート銀行	H24.8.31	—	4,000	0.88	H29.8.31			
	株式会社日本政策投資銀行	H24.8.31	—	1,000	0.99	H30.8.31			
	株式会社日本政策投資銀行	H24.8.31	—	1,000	1.12	H31.8.30			
小 計	—	101,500	102,825	—	—	—	—	—	
合 計	—	124,000	129,825	—	—	—	—	—	

(注1) 不動産及び不動産信託受益権の購入資金に充当しています。

(注2) 平成22年2月26日を初回として、以降6か月毎の末日に50百万円を返済し、平成25年8月30日に1,650百万円を返済します。

(注3) 平成22年9月12日を初回として、以降6か月毎の12日に75百万円を返済し、平成26年3月12日に2,475百万円を返済します。

3. 投資法人債

当期末現在における発行済投資法人債の状況は以下のとおりです。

銘柄	発行 年月日	当期首 残高 (百万円)	当期末 残高 (百万円)	利 率 (%)	償還期限	償還方法	使 途	摘 要
第1回無担保投資法人債	H23.2.25	5,000	5,000	0.83	H26.2.25	期限一括	(注1)	(注2)
第2回無担保投資法人債	H24.2.28	5,000	5,000	0.76	H27.2.27	期限一括	(注1)	(注2)
合 計	—	10,000	10,000	—	—	—	—	—

(注1) 借入金の返済資金に充当しています。

(注2) 特定投資法人債間限定同順位特約が付されています。

4. 短期投資法人債

該当事項はありません。

1. 不動産等及び資産対応証券等の売買状況等

不動産等の名称	取 得		譲 渡			
	取得日	取得価額 (注1) (百万円)	譲渡日	譲渡価額 (注1) (百万円)	帳簿価額 (百万円)	売却損益 (注2) (百万円)
天神プライム	H24.7.12	6,940	—	—	—	—
合 計	—	6,940	—	—	—	—

(注1) 「取得価額」及び「譲渡価額」は、当該不動産等の取得及び譲渡に要した諸費用（売買媒介手数料、公租公課等）を含まない金額（売買契約書等に記載された売買価格）を記載しています。以下同じです。

(注2) 「売却損益」は譲渡価額から帳簿価額及び売却にかかる費用を控除した金額を記載しています。

2. その他の資産の売買状況等

該当事項はありません。

3. 特定資産の価格等の調査

取得 または 譲渡	不動産等の名称	取引年月日	資産の種類	取得価額 または 譲渡価額 (百万円)	不動産鑑定 評価額 (百万円)	不動産 鑑定機関	価格時点
取得	天神プライム	H24.7.12	信託不動産	6,940	7,320	一般財団法人 日本不動産研究所	H24.6.1

4. 利害関係人等及び主要株主との取引状況等

(1) 取引状況

該当事項はありません。

(2) 支払手数料等の金額

区 分	支払手数料等 総額 (A) (千円)	利害関係人等及び主要株主との取引の内訳 (注1)		総額に対する 割合 (B/A) (%)
		支払先	支払金額 (B) (千円)	
損 害 保 険 料	30,713	エムティジェネックス株式会社	17,575	57.2
建 物 管 理 委 託 料	259,984	森トラスト株式会社	7,844	3.0
		森トラスト・ビルマネジメント株式会社	113,342	43.6
施 設 使 用 料	293	森観光トラスト株式会社	293	100.0

(注1) 利害関係人等とは、投資信託及び投資法人に関する法律第201条第1項及び同施行令第123条に定める本投資法人と資産運用業務委託契約を締結している資産運用会社の利害関係人等を、主要株主とは金融商品取引法第29条の4第2項に定義される資産運用会社の主要株主をいい、このうち当期に取引実績及び手数料等支払のある相手先について上記のとおり記載しています。

(注2) 上記記載の取引及び支払手数料等以外に当期中に利害関係人等及び主要株主へ支払った工事代金等（工事管理手数料を含みます。）は以下のとおりです。

森トラスト株式会社	394千円
森トラスト・ビルマネジメント株式会社	592千円
エムティジェネックス株式会社	7,600千円

5. 資産運用会社が営む兼業業務に係る当該資産運用会社との間の取引の状況等

資産運用会社（森トラスト・アセットマネジメント株式会社）は、第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業、宅地建物取引業または不動産特定共同事業のいずれの業務も兼業しておらず該当する取引はありません。

経理の状況

1. 資産、負債、元本（出資）及び損益の状況

資産、負債、元本（出資）及び損益の状況については、「Ⅱ. 貸借対照表」、「Ⅲ. 損益計算書」、「Ⅳ. 投資主資本等変動計算書」、「Ⅴ. 注記表」及び「Ⅵ. 金銭の分配に係る計算書」をご参照ください。

2. 減価償却額の算定方法の変更

該当事項はありません。

3. 不動産等の評価方法の変更

該当事項はありません。

その他

1. 自社設定投資信託受益証券等の状況等

該当事項はありません。

2. お知らせ

当期において、本投資法人の役員会で承認された主要な契約の締結・変更等の概要は以下のとおりです。

承認日	項 目	概 要
平成24年 4 月25日	投資法人債の発行にかかる包括決議及びそれに伴う一般事務の委託	投資法人債を引き受ける者の募集に関する事務等の一般事務の委託につき、候補会社を承認し、その他の必要な事項の決定を執行役員に一任しました。
平成24年 7 月25日	投資法人債の発行にかかる包括決議及びそれに伴う一般事務の委託	投資法人債を引き受ける者の募集に関する事務等の一般事務の委託につき、候補会社を承認し、その他の必要な事項の決定を執行役員に一任しました。

3. その他

本書では、特に記載のない限り、記載未満の数値については、金額は切り捨て、比率は四捨五入し、マイナス表記については△により記載しています。

貸借対照表

(単位：千円)

	前期(ご参考) (平成24年3月31日)	当期 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,677,889	12,255,401
信託現金及び信託預金	1,186,703	1,282,741
営業未収入金	72,745	63,339
前払費用	39,071	51,235
繰延税金資産	19	15
流動資産合計	12,976,430	13,652,735
固定資産		
有形固定資産		
建物	50,261,941	50,398,966
減価償却累計額	△10,062,211	△11,025,369
建物(純額)	40,199,729	39,373,596
構築物	617,207	617,207
減価償却累計額	△256,405	△303,239
構築物(純額)	360,801	313,967
機械及び装置	128,877	128,877
減価償却累計額	△88,954	△93,438
機械及び装置(純額)	39,922	35,438
工具、器具及び備品	103,655	105,803
減価償却累計額	△40,201	△47,359
工具、器具及び備品(純額)	63,453	58,443
土地	176,130,903	176,130,903
建設仮勘定	5,572	4,903
信託建物	※1 14,289,163	※1 15,767,710
減価償却累計額	△2,988,144	△3,270,859
信託建物(純額)	11,301,019	12,496,850
信託構築物	41,857	49,359
減価償却累計額	△34,452	△35,039
信託構築物(純額)	7,405	14,319
信託機械及び装置	2,277	2,277
減価償却累計額	△2,163	△2,163
信託機械及び装置(純額)	113	113
信託工具、器具及び備品	15,971	15,971
減価償却累計額	△4,591	△5,523
信託工具、器具及び備品(純額)	11,379	10,447
信託土地	48,762,053	54,367,515
有形固定資産合計	276,882,354	282,806,499
無形固定資産		
その他	240	240
無形固定資産合計	240	240
投資その他の資産		
差入保証金	10,000	10,000
長期前払費用	23,828	12,868
その他	3,152	3,602
投資その他の資産合計	36,980	26,470
固定資産合計	276,919,574	282,833,210
繰延資産		
投資法人債発行費	37,746	29,891
繰延資産合計	37,746	29,891
資産合計	289,933,751	296,515,837

(単位：千円)

	前期(ご参考) (平成24年3月31日)	当期 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	159,589	423,242
短期借入金	22,500,000	27,000,000
1年内返済予定の長期借入金	36,300,000	37,350,000
未払金	117,308	193,974
未払費用	594,471	564,392
未払配当金	15,849	16,231
未払法人税等	882	705
未払消費税等	182,357	114,704
前受金	1,394,518	1,397,836
預り金	1,720	6,716
流動負債合計	61,266,697	67,067,805
固定負債		
投資法人債	10,000,000	10,000,000
長期借入金	65,200,000	65,475,000
預り敷金及び保証金	11,741,782	12,215,120
信託預り敷金及び保証金	247,752	247,752
繰延税金負債	50,509	50,509
固定負債合計	87,240,044	87,988,382
負債合計	148,506,742	155,056,188
純資産の部		
投資主資本		
出資総額	136,609,600	136,609,600
剰余金		
任意積立金		
圧縮積立金	—	97,352
任意積立金合計	—	97,352
当期末処分利益又は当期末処理損失(△)	4,817,408	4,752,696
剰余金合計	4,817,408	4,850,049
投資主資本合計	141,427,008	141,459,649
純資産合計	※3 141,427,008	※3 141,459,649
負債純資産合計	289,933,751	296,515,837

損益計算書

(単位：千円)

	前期(ご参考) (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)		当期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	
営業収益				
賃貸事業収入	※1	8,542,431	※1	8,570,303
その他賃貸事業収入	※1	224,937	※1	216,028
不動産等売却益	※2	246,876		—
営業収益合計		9,014,244		8,786,331
営業費用				
賃貸事業費用	※1	2,847,697	※1	2,835,289
資産運用報酬		277,371		275,759
資産保管手数料		13,030		13,177
一般事務委託手数料		42,860		43,997
役員報酬		9,180		9,180
その他営業費用		67,730		45,574
営業費用合計		3,257,869		3,222,979
営業利益		5,756,374		5,563,352
営業外収益				
受取利息		816		1,180
固定資産税等還付金		—		11,136
還付加算金		—		5,395
受取保険金		4,139		1,369
その他		1,173		1,673
営業外収益合計		6,129		20,756
営業外費用				
支払利息		864,921		782,855
投資法人債利息		24,081		39,854
投資法人債発行費償却		4,581		7,854
営業外費用合計		893,583		830,564
経常利益		4,868,920		4,753,544
特別利益				
補助金収入		38,340		—
特別利益合計		38,340		—
特別損失				
固定資産圧縮損		38,340		—
特別損失合計		38,340		—
税引前当期純利益		4,868,920		4,753,544
法人税、住民税及び事業税		1,034		932
法人税等調整額		50,510		3
法人税等合計		51,544		936
当期純利益		4,817,376		4,752,608
前期繰越利益		32		88
当期末処分利益又は当期末処理損失(△)		4,817,408		4,752,696

投資主資本等変動計算書

(単位：千円)

	前期(ご参考) (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)		当期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	
投資主資本				
出資総額				
当期首残高		136,609,600		136,609,600
当期変動額		—		—
当期変動額合計		—		—
当期末残高		136,609,600		136,609,600
剰余金				
任意積立金				
圧縮積立金				
当期首残高		—		—
当期変動額		—		—
圧縮積立金の積立		—		97,352
当期変動額合計		—		97,352
当期末残高		—		97,352
任意積立金合計		—		—
当期首残高		—		—
当期変動額		—		—
圧縮積立金の積立		—		97,352
当期変動額合計		—		97,352
当期末残高		—		97,352
当期末処分利益又は当期末処理損失(△)				
当期首残高		4,554,230		4,817,408
当期変動額		—		△97,352
圧縮積立金の積立		—		△97,352
剰余金の配当		△4,554,198		△4,719,968
当期純利益		4,817,376		4,752,608
当期変動額合計		263,178		△64,712
当期末残高		4,817,408		4,752,696
剰余金合計				
当期首残高		4,554,230		4,817,408
当期変動額		—		△97,352
剰余金の配当		△4,554,198		△4,719,968
当期純利益		4,817,376		4,752,608
当期変動額合計		263,178		32,640
当期末残高		4,817,408		4,850,049
投資主資本合計				
当期首残高		141,163,830		141,427,008
当期変動額		—		—
剰余金の配当		△4,554,198		△4,719,968
当期純利益		4,817,376		4,752,608
当期変動額合計		263,178		32,640
当期末残高		141,427,008		141,459,649
純資産合計				
当期首残高		141,163,830		141,427,008
当期変動額		—		—
剰余金の配当		△4,554,198		△4,719,968
当期純利益		4,817,376		4,752,608
当期変動額合計		263,178		32,640
当期末残高		141,427,008		141,459,649

注記表

〔重要な会計方針に係る事項に関する注記〕

項目	期別	
	前期(ご参考) (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)	当期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
1. 固定資産の減価償却の方法	有形固定資産（信託財産を含みます。）定額法を採用しています。 なお、主たる有形固定資産の耐用年数は以下のとおりです。 建物 3～41年 構築物 2～20年 機械及び装置 3～17年 工具、器具及び備品 3～15年	有形固定資産（信託財産を含みます。）定額法を採用しています。 なお、主たる有形固定資産の耐用年数は以下のとおりです。 建物 3～41年 構築物 2～20年 機械及び装置 3～17年 工具、器具及び備品 3～15年
2. 繰延資産の処理方法	投資法人債発行費償還までの期間にわたり定額法により償却しています。	投資法人債発行費償還までの期間にわたり定額法により償却しています。
3. 収益及び費用の計上基準	固定資産税等の処理方法 保有する不動産にかかる固定資産税、都市計画税及び償却資産税等については、賦課決定された税額のうち当該営業期間に対応する額を賃貸事業費用として費用処理する方法を採用しています。 —	固定資産税等の処理方法 保有する不動産にかかる固定資産税、都市計画税及び償却資産税等については、賦課決定された税額のうち当該営業期間に対応する額を賃貸事業費用として費用処理する方法を採用しています。 なお、不動産または不動産を信託財産とする信託受益権の取得に伴い、精算金として譲渡人に支払った初年度の固定資産税等相当額については、費用に計上せず当該不動産の取得原価に算入しています。当期において不動産等の取得原価に算入した固定資産税等相当額は20,066千円です。
4. 不動産等を信託財産とする信託受益権に関する会計処理方針	保有する不動産等を信託財産とする信託受益権については、信託財産内の全ての資産及び負債勘定並びに信託財産に生じた全ての収益及び費用勘定について、貸借対照表及び損益計算書の該当勘定科目に計上しています。 なお、該当勘定科目に計上した信託財産のうち重要性がある以下の科目については、貸借対照表において区分掲記することとしています。 (1)信託現金及び信託預金 (2)信託建物、信託構築物、信託機械及び装置、信託工具、器具及び備品、信託土地 (3)信託預り敷金及び保証金	保有する不動産等を信託財産とする信託受益権については、信託財産内の全ての資産及び負債勘定並びに信託財産に生じた全ての収益及び費用勘定について、貸借対照表及び損益計算書の該当勘定科目に計上しています。 なお、該当勘定科目に計上した信託財産のうち重要性がある以下の科目については、貸借対照表において区分掲記することとしています。 (1)信託現金及び信託預金 (2)信託建物、信託構築物、信託機械及び装置、信託工具、器具及び備品、信託土地 (3)信託預り敷金及び保証金
5. 消費税等の処理方法	消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しています。	消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しています。

〔貸借対照表に関する注記〕

項目	期別	
	前期(ご参考) (平成24年3月31日)	当期 (平成24年9月30日)
1. 国庫補助金等により取得した有形固定資産の圧縮記帳額	信託建物 38,340千円	信託建物 38,340千円
2. 当座借越契約	機動的な資金調達手段を確保することを主たる目的として、取引銀行と特殊当座借越契約を締結しています。 契約極度額 20,000,000千円 当期末借入残高 — 差引額 20,000,000千円	機動的な資金調達手段を確保することを主たる目的として、取引銀行と特殊当座借越契約を締結しています。 契約極度額 20,000,000千円 当期末借入残高 — 差引額 20,000,000千円
3. 投資信託及び投資法人に関する法律第67条第4項に定める最低純資産額	50,000千円	50,000千円

〔損益計算書に関する注記〕

(単位：千円)

項目	期別	
	前期(ご参考) (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)	当期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
1. 不動産賃貸事業損益の内訳	<p>A. 不動産賃貸事業収益</p> <p>賃貸事業収入</p> <p>家賃 8,059,415</p> <p>共益費 265,909</p> <p>土地賃貸収益 217,106</p> <p>計 8,542,431</p> <p>その他賃貸事業収入</p> <p>駐車場使用料 22,110</p> <p>付帯収益 149,463</p> <p>その他収益 53,363</p> <p>計 224,937</p> <p>不動産賃貸事業収益合計 8,767,368</p> <p>B. 不動産賃貸事業費用</p> <p>賃貸事業費用</p> <p>管理業務費 272,976</p> <p>水道光熱費 200,860</p> <p>公租公課 913,821</p> <p>損害保険料 29,859</p> <p>修繕費 127,634</p> <p>減価償却費 1,292,097</p> <p>その他費用 10,447</p> <p>不動産賃貸事業費用合計 2,847,697</p> <p>C. 不動産賃貸事業損益(A-B) 5,919,671</p>	<p>A. 不動産賃貸事業収益</p> <p>賃貸事業収入</p> <p>家賃 8,168,104</p> <p>共益費 278,454</p> <p>土地賃貸収益 123,745</p> <p>計 8,570,303</p> <p>その他賃貸事業収入</p> <p>駐車場使用料 22,718</p> <p>付帯収益 146,602</p> <p>その他収益 46,707</p> <p>計 216,028</p> <p>不動産賃貸事業収益合計 8,786,331</p> <p>B. 不動産賃貸事業費用</p> <p>賃貸事業費用</p> <p>管理業務費 260,884</p> <p>水道光熱費 221,274</p> <p>公租公課 882,366</p> <p>損害保険料 30,713</p> <p>修繕費 114,216</p> <p>減価償却費 1,305,868</p> <p>その他費用 19,965</p> <p>不動産賃貸事業費用合計 2,835,289</p> <p>C. 不動産賃貸事業損益(A-B) 5,951,042</p>
2. 不動産等売却益の内訳	<p>フレスポ稲毛</p> <p>不動産等売却収入 2,450,000</p> <p>不動産等売却原価 2,193,263</p> <p>その他売却費用 9,860</p> <p>不動産等売却益 246,876</p>	<p>該当事項はありません。</p>

〔投資主資本等変動計算書に関する注記〕

項目	前期(ご参考)		当期	
	(自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)		(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	
発行可能投資口の総口数及び発行済投資口数	発行可能投資口の総口数	2,000,000口	発行可能投資口の総口数	2,000,000口
	発行済投資口数	242,000口	発行済投資口数	242,000口

〔税効果会計に関する注記〕

(単位：千円)

項目	前期(ご参考)		当期	
	(平成24年3月31日)		(平成24年9月30日)	
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生主な原因別内訳	(繰延税金資産)		(繰延税金資産)	
	未払事業税損金不算入額	19	未払事業税損金不算入額	15
	繰延税金資産合計	19	繰延税金資産合計	15
	(繰延税金負債)		(繰延税金負債)	
	圧縮積立金	50,509	圧縮積立金	50,509
	繰延税金負債合計	50,509	繰延税金負債合計	50,509
	(繰延税金負債の純額)	50,490	(繰延税金負債の純額)	50,493
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳	法定実効税率(調整)	39.33%	法定実効税率(調整)	36.59%
	支払分配金の損金算入額	△38.13%	支払分配金の損金算入額	△36.58%
	住民税均等割	0.01%	住民税均等割	0.01%
	税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	△0.15%	税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	△0.15%
	税効果会計適用後の法人税等の負担率	1.06%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	0.02%

〔リースにより使用する固定資産に関する注記〕

前期(ご参考)	当期
(自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)	(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
該当事項はありません。	該当事項はありません。

〔金融商品に関する注記〕

前期(自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)(ご参考)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

本投資法人は、運用資産の効率的な運用及び運用の安定性に資するため、資産の取得、修繕等または分配金の支払い、もしくは債務の返済(敷金等並びに借入金及び投資法人債の債務の返済を含みます。)、運転資金等に手当てされる資金を、借入れ、投資法人債の発行及び投資口の発行等により調達しています。

余資の運用は、安全性、換金性等を考慮し金利環境及び資金繰りを十分に鑑みたくて慎重に行っています。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

借入れ、投資法人債の発行及び投資口の発行等によって調達した資金は、不動産及び不動産信託受益権の購入資金に充当しています。借入金及び預り敷金は流動性リスクに晒されていますが、企画財務部及び投資運用部からの報告に基づき資金繰り表を作成・更新するとともに、手許流動性を維持することにより、流動性リスクを管理しています。

なお、機動的な資金調達手段を確保するために極度借入枠設定契約を締結しています。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成24年3月31日現在の貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めていません。

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	11,677,889	11,677,889	—
(2) 信託現金及び信託預金	1,186,703	1,186,703	—
資産合計	12,864,593	12,864,593	—
(1) 短期借入金	22,500,000	22,500,000	—
(2) 1年内返済予定の長期借入金	36,300,000	36,484,600	184,600
(3) 投資法人債	10,000,000	10,029,211	29,211
(4) 長期借入金	65,200,000	65,985,938	785,938
(5) 預り敷金及び保証金	4,477,512	4,278,489	△199,023
(6) 信託預り敷金及び保証金	247,752	211,275	△36,476
負債合計	138,725,264	139,489,515	764,250

(注1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資産

(1) 現金及び預金 (2) 信託現金及び信託預金
預金は全て短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

負債

(1) 短期借入金
短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。
(2) 1年内返済予定の長期借入金 (4) 長期借入金
長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入れを行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっています。
(3) 投資法人債
投資法人債の時価については、元利金の合計額を投資法人債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いて算定する方法によっています。
(5) 預り敷金及び保証金 (6) 信託預り敷金及び保証金
預り敷金及び保証金、信託預り敷金及び保証金については、その将来キャッシュ・フローを、返済期日までの期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しています。預り敷金及び保証金のうち貸借対照表計上額7,264,270千円については返還予定時期等を見積もることが困難と認められることから上記に含めていません。

(注2) 金銭債権の決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
現金及び預金	11,677,889	—	—	—	—	—
信託現金及び信託預金	1,186,703	—	—	—	—	—

(注3) 借入金及び投資法人債の決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	22,500,000	—	—	—	—	—
1年内返済予定の長期借入金	36,300,000	—	—	—	—	—
投資法人債	—	5,000,000	5,000,000	—	—	—
長期借入金	—	37,700,000	20,000,000	3,500,000	4,000,000	—

当期（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

本投資法人は、運用資産の効率的な運用及び運用の安定性に資するため、資産の取得、修繕等または分配金の支払い、もしくは債務の返済（敷金等並びに借入金及び投資法人債の債務の返済を含みます。）、運転資金等に手当てされる資金を、借入れ、投資法人債の発行及び投資口の発行等により調達しています。

余資の運用は、安全性、換金性等を考慮し金利環境及び資金繰りを十分に鑑みたくうえで慎重に行っています。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

借入れ、投資法人債の発行及び投資口の発行等によって調達した資金は、不動産及び不動産信託受益権の購入資金に充当しています。借入金及び預り敷金は流動性リスクに晒されていますが、企画財務部及び投資運用部からの報告に基づき資金繰り表を作成・更新するとともに、手許流動性を維持することにより、流動性リスクを管理しています。

なお、機動的な資金調達手段を確保するために極度借入枠設定契約を締結しています。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によつた場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成24年9月30日現在の貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めていません。

	貸借対照表計上額 (千円)	時 価 (千円)	差 額 (千円)
(1) 現金及び預金	12,255,401	12,255,401	—
(2) 信託現金及び信託預金	1,282,741	1,282,741	—
資産合計	13,538,143	13,538,143	—
(1) 短期借入金	27,000,000	27,000,000	—
(2) 1年内返済予定の長期借入金	37,350,000	37,539,739	189,739
(3) 投資法人債	10,000,000	10,032,738	32,738
(4) 長期借入金	65,475,000	66,037,405	562,405
(5) 預り敷金及び保証金	4,852,075	4,679,788	△172,286
(6) 信託預り敷金及び保証金	247,752	216,782	△30,969
負債合計	144,924,827	145,506,454	581,626

〔注1〕金融商品の時価の算定方法に関する事項

資産

(1) 現金及び預金 (2) 信託現金及び信託預金

預金は全て短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

負債

(1) 短期借入金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

(2) 1年内返済予定の長期借入金 (4) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入れを行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっています。

(3) 投資法人債

投資法人債の時価については、元利金の合計額を投資法人債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いて算定する方法によっています。

(5) 預り敷金及び保証金 (6) 信託預り敷金及び保証金

預り敷金及び保証金、信託預り敷金及び保証金については、その将来キャッシュ・フローを、返済期日までの期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しています。預り敷金及び

保証金のうち貸借対照表計上額7,363,044千円については返還予定時期等を見積もることが困難と認められることから上記に含めていません。

〔注2〕金銭債権の決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
現金及び預金	12,255,401	—	—	—	—	—
信託現金及び 信託預金	1,282,741	—	—	—	—	—

〔注3〕借入金及び投資法人債の決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	27,000,000	—	—	—	—	—
1年内返済予定の 長期借入金	37,350,000	—	—	—	—	—
投資法人債	—	5,000,000	5,000,000	—	—	—
長期借入金	—	32,475,000	19,000,000	5,500,000	6,500,000	2,000,000

〔賃貸等不動産に関する注記〕

前期（自平成23年10月1日 至平成24年3月31日）（ご参考）

本投資法人では、東京都を中心として、賃貸オフィスビルや賃貸商業施設等を所有しています。これら賃貸等不動産の平成24年3月31日現在の貸借対照表計上額、当期増減額及び時価は次のとおりです。

（単位：千円）

用 途	貸借対照表計上額			当期末時価
	当期首残高	当期増減額	当期末残高	
オフィスビル	214,332,089	△831,060	213,501,028	205,020,000
商業施設	44,701,037	△2,376,347	42,324,690	44,290,000
その他	21,102,864	△46,229	21,056,635	18,400,000
合 計	280,135,990	△3,253,636	276,882,354	267,710,000

〔注1〕該当する賃貸等不動産の概要は「投資法人の運用資産の状況 3. 組入資産明細」をご覧ください。

〔注2〕貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額です。

〔注3〕当期増減額のうち増加理由は保有資産の改修工事であり、減少理由はフレスポ稲毛の譲渡（2,193,263千円）及び減価償却費です。

〔注4〕当期末の時価については、社外の不動産鑑定士による鑑定評価額または調査価額です。

また、賃貸等不動産に関する平成24年3月期における損益は次のとおりです。

（単位：千円）

用 途	損益計算書における金額			
	不動産賃貸事業収益	不動産賃貸事業費用	不動産賃貸事業損益	不動産等売却益
オフィスビル	6,571,200	2,105,627	4,465,573	—
商業施設	1,450,269	362,764	1,087,505	246,876
その他	745,898	379,305	366,592	—
合 計	8,767,368	2,847,697	5,919,671	246,876

〔注1〕不動産賃貸事業収益及び不動産賃貸事業費用は、賃貸収益とこれに対応する費用（減価償却費、修繕費、保険料、公租公課等）であり、それぞれ「営業収益」及び「営業費用」に計上されています。

〔注2〕不動産等売却益は「営業収益」に計上されています。

当期（自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日）

本投資法人では、東京都を中心として、賃貸オフィスビルや賃貸商業施設等を所有しています。これら賃貸等不動産の平成24年9月30日現在の貸借対照表計上額、当期増減額及び時価は次のとおりです。

(単位：千円)

用途	貸借対照表計上額			当期末時価
	当期首残高	当期増減額	当期末残高	
オフィスビル	213,501,028	6,244,846	219,745,875	211,570,000
商業施設	42,324,690	△180,686	42,144,003	44,590,000
その他	21,056,635	△140,014	20,916,620	18,410,000
合計	276,882,354	5,924,145	282,806,499	274,570,000

(注1) 該当する賃貸等不動産の概要は「投資法人の運用資産の状況 3. 組入資産明細」をご覧ください。

(注2) 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額です。

(注3) 当期増減額のうち主な増加理由は天神プライムの取得（6,987,793千円）であり、減少理由は減価償却費です。

(注4) 当期末の時価については、社外の不動産鑑定士による鑑定評価額または調査価額です。

また、賃貸等不動産に関する平成24年9月期における損益は次のとおりです。

(単位：千円)

用途	損益計算書における金額		
	不動産賃貸事業収益	不動産賃貸事業費用	不動産賃貸事業損益
オフィスビル	6,689,446	2,136,029	4,553,416
商業施設	1,355,956	359,191	996,764
その他	740,929	340,069	400,860
合計	8,786,331	2,835,289	5,951,042

(注) 不動産賃貸事業収益及び不動産賃貸事業費用は、賃貸収益とこれに対応する費用（減価償却費、修繕費、保険料、公租公課等）であり、それぞれ「営業収益」及び「営業費用」に計上されています。

〔関連当事者との取引に関する注記〕

前期（自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日）（ご参考）

(単位：千円)

属性	会社等の名称	投資口の所有口数割合	関係内容		取引の内容	取引金額	科目	期末残高
			役員の兼任等	事業上の関係				
その他の関係会社の子会社	森トラスト(株)	なし	なし	不動産の賃貸	不動産の賃貸	3,226,135	営業未収入金	435
							前受金	489,130
							預り敷金及び保証金	1,157,936
資産保管会社	住友信託銀行(株)	なし	なし	資産保管、一般事務、資金の借入	利息の支払	98,781	短期借入金	3,000,000
							1年内返済予定の長期借入金	6,500,000
							長期借入金	7,500,000
							未払利息	35,379

(注1) 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれています。

(注2) 取引条件の決定方針

市場の実勢に基づいて決定しています。

(注3) 千円未満を切り捨てて表示しています。

当期（自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日）

(単位：千円)

属性	会社等の名称	投資口の所有口数割合	関係内容		取引の内容	取引金額	科目	期末残高
			役員の兼任等	事業上の関係				
その他の関係会社の子会社	森トラスト(株)	なし	なし	不動産の賃貸	不動産の賃貸	3,233,462	営業未収入金	678
							前受金	489,125
							預り敷金及び保証金	1,175,676
資産保管会社	三井住友信託銀行(株)	なし	なし	資産保管、一般事務、資金の借入	利息の支払	73,681	短期借入金	1,000,000
							1年内返済予定の長期借入金	2,500,000
							長期借入金	13,500,000
							未払利息	23,999

(注1) 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれています。

(注2) 取引条件の決定方針

市場の実勢に基づいて決定しています。

(注3) 千円未満を切り捨てて表示しています。

〔1口当たり情報に関する注記〕

前 期(ご参考) (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)		当 期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	
1口当たり純資産額	584,409円	1口当たり純資産額	584,544円
1口当たり当期純利益	19,906円	1口当たり当期純利益	19,638円
なお、1口当たり当期純利益は、当期純利益を日数加重平均投資口数で除することにより算定しています。		なお、1口当たり当期純利益は、当期純利益を日数加重平均投資口数で除することにより算定しています。	
また、潜在投資口調整後1口当たり当期純利益については、潜在投資口がないため記載していません。		また、潜在投資口調整後1口当たり当期純利益については、潜在投資口がないため記載していません。	

(注) 1口当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前 期(ご参考) (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)	当 期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
当期純利益 (千円)	4,817,376	4,752,608
普通投資主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通投資口に係る当期純利益 (千円)	4,817,376	4,752,608
期中平均投資口数 (口)	242,000	242,000

〔重要な後発事象に関する注記〕

前 期(ご参考) (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)	当 期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
該当事項はありません。	固定資産の無償譲受 本投資法人が保有する丸紅大阪本社ビルにおいて、テナントとの定期建物賃貸借契約が平成24年9月30日をもって期間満了となったことに伴い、テナントが所有していたビル運営上必要な建物附属設備等の固定資産を平成24年10月1日に無償で譲り受けました。 この結果、平成25年3月期に固定資産受贈益(約740百万円)を特別利益に計上する見込みです。

金銭の分配に係る計算書

(単位:円)

	前 期(ご参考) (自 平成23年10月1日 至 平成24年 3月31日)	当 期 (自 平成24年 4月1日 至 平成24年 9月30日)
I. 当期末処分利益	4,817,408,981	4,752,696,189
II. 分配金の額	4,719,968,000	4,752,638,000
(投資口1口当たり分配金の額)	(19,504)	(19,639)
III. 任意積立金		
圧縮積立金繰入額	97,352,905	—
IV. 次期繰越利益	88,076	58,189
分配金の額の算出方法	本投資法人の規約第29条第1項に従い、当期末処分利益から租税特別措置法第66条の2による圧縮積立金を控除した残額を超えない額で発行済投資口数242,000口の整数倍数の最大値となる4,719,968,000円を利益分配金として分配することとしました。 なお、本投資法人の規約第29条第2項に定める利益を超えた金銭の分配は行いません。	本投資法人の規約第29条第1項に従い、当期末処分利益を超えない額で発行済投資口数242,000口の整数倍数の最大値となる4,752,638,000円を利益分配金として分配することとしました。 なお、本投資法人の規約第29条第2項に定める利益を超えた金銭の分配は行いません。


会計監査人の監査報告書

独立監査人の監査報告書


平成24年11月12日

森トラスト総合リート投資法人
役員会 御中


新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 多田 修 

業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 金子 秀嗣 

業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 北本 任永子 

業務執行社員

当監査法人は、「投資信託及び投資法人に関する法律」第130条の規定に基づき、森トラスト総合リート投資法人の平成24年4月1日から平成24年9月30日までの第21期営業期間の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、投資主資本等変動計算書及び注記表、資産運用報告及び金銭の分配に係る計算書並びにこれらの附属明細書（資産運用報告及びその附属明細書については、会計に関する部分に限る。以下同じ。）について監査を行った。なお、資産運用報告及びその附属明細書について監査の対象とした会計に関する部分は、資産運用報告及びその附属明細書に記載されている事項のうち会計帳簿の記録に基づく記載部分である。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、法令及び規約並びに我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類、資産運用報告及び金銭の分配に係る計算書並びにこれらの附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類、資産運用報告及び金銭の分配に係る計算書並びにこれらの附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類、資産運用報告及び金銭の分配に係る計算書並びにこれらの附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類、資産運用報告及び金銭の分配に係る計算書並びにこれらの附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類、資産運用報告及び金銭の分配に係る計算書並びにこれらの附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類、資産運用報告及び金銭の分配に係る計算書並びにこれらの附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類、資産運用報告及び金銭の分配に係る計算書並びにこれらの附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類、資産運用報告及び金銭の分配に係る計算書並びにこれらの附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類、資産運用報告及び金銭の分配に係る計算書並びにこれらの附属明細書が、法令及び規約並びに我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類、資産運用報告及び金銭の分配に係る計算書並びにこれらの附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

投資法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

キャッシュ・フロー計算書（参考情報）

(単位：千円)

	前 期 (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)	当 期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	4,868,920	4,753,544
減価償却費	1,292,097	1,305,868
投資法人債発行費償却	4,581	7,854
受取利息	△816	△1,180
支払利息	889,002	822,709
補助金収入	△38,340	—
固定資産圧縮損	38,340	—
営業未収入金の増減額（△は増加）	27,658	9,405
営業未払金の増減額（△は減少）	27,088	263,652
未払消費税等の増減額（△は減少）	60,830	△67,653
前受金の増減額（△は減少）	△17,137	3,318
信託有形固定資産の売却による減少額	2,193,263	—
その他	△22,993	10,993
小計	9,322,494	7,108,514
利息の受取額	816	1,180
利息の支払額	△891,305	△859,320
法人税等の支払額	△1,022	△1,109
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,430,983	6,249,264
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△71,853	△79,246
信託有形固定資産の取得による支出	△166,076	△7,074,770
預り敷金及び保証金の返還による支出	△8,080	△1,810
預り敷金及び保証金の受入による収入	33,989	475,148
信託預り敷金及び保証金の返還による支出	△232,248	—
補助金の受取額	38,340	—
その他	—	△450
投資活動によるキャッシュ・フロー	△405,929	△6,681,128
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	4,500,000
長期借入れによる収入	5,000,000	20,000,000
長期借入金の返済による支出	△9,200,000	△18,675,000
投資法人債の発行による収入	5,000,000	—
投資法人債発行費の支出	△23,427	—
分配金の支払額	△4,555,641	△4,719,585
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,779,068	1,105,414
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	4,245,985	673,550
現金及び現金同等物の期首残高	8,618,608	12,864,593
現金及び現金同等物の期末残高	12,864,593	13,538,143

(注) キャッシュ・フロー計算書は、投資信託及び投資法人に関する法律第130条の規定に基づく会計監査人の監査対象ではないため、会計監査人の監査は受けていません。

投資主インフォメーション

〔重要な会計方針に係る事項に関する注記〕（参考情報）

項目	期別 前期 (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)	当期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）の範囲	キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は以下のものを対象としています。 (1)手許現金及び信託現金 (2)随時引出し可能な預金及び信託預金 (3)容易に換金が可能であり、かつ価値の変動について僅少のリスクしか負わない、取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資	キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は以下のものを対象としています。 (1)手許現金及び信託現金 (2)随時引出し可能な預金及び信託預金 (3)容易に換金が可能であり、かつ価値の変動について僅少のリスクしか負わない、取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資

〔キャッシュ・フロー計算書に関する注記〕（参考情報）

(単位：千円)

項目	期別 前期 (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)	当期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に記載されている科目の金額との関係	(平成24年3月31日現在)	(平成24年9月30日現在)
	現金及び預金 11,677,889	現金及び預金 12,255,401
	信託現金及び信託預金 1,186,703	信託現金及び信託預金 1,282,741
	現金及び現金同等物 12,864,593	現金及び現金同等物 13,538,143

■ 投資主インフォメーション

● 投資口に関するお届出先及びご照会先について

投資主様のご住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。平成21年1月5日に実施された株券電子化の前に「ほふり」((株)証券保管振替機構)を利用されていなかった投資主様には、投資主名簿等管理人である下記の三井住友信託銀行(株)に口座(特別口座といいます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、下記の電話照会先をお願いいたします。

● 分配金について

「分配金」は「分配金領収証」をお近くのゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局(銀行代理業者)にお持ちいただくことによりお受け取りいただけます。受取期間を過ぎた場合は、「分配金領収証」裏面に受取方法を指定し、三井住友信託銀行(株)証券代行部へご郵送いただくか、同銀行の本支店窓口にてお受け取りください。また、今後の分配金に関して、銀行等預金口座あるいはゆうちょ銀行貯金口座(通常貯金口座)への振込のご指定などの手続きをご希望の方はお取引の証券会社等にてお手続きください。なお、分配金は、本投資法人規約の規定により、分配金支払開始の日から満3年を経過しますとお支払できなくなりますので、お早めにお受け取りください。

● 分配金計算書について

租税特別措置法の規定により、本投資法人がお支払する分配金について、分配金額や徴収税額等を記載した「支払通知書」を投資主様宛にお送りすることになっておりますが、同封の「分配金計算書」が「支払通知書」を兼ねており、投資主様が確定申告をする際の添付資料としてご使用いただけます。ただし、株式数比例配分方式を選択されている場合は、お取引の証券会社等へご確認ください。

● ホームページによる情報提供について <ホームページアドレス <http://www.mt-reit.jp> >

本投資法人のホームページでは、以下のような情報をご提供させていただいております。
 投資方針、財務方針、本投資法人の基本的な仕組みなど本投資法人の概況
 ポートフォリオマップ、物件概要、投資比率などポートフォリオ概況
 プレスリリース、決算情報等の各種ディスクロージャー資料、分配金に関する情報 など
 今後も、投資主の皆様へ有用な情報をご提供いただけるようさらなる充実を図ってまいります。

■ IRカレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
決算発表		● 3月期決算発表						● 9月期決算発表				
分配金支払			● 3月期分配金支払開始			決算月			● 9月期分配金支払開始			決算月
資産運用報告			● 3月期資産運用報告発送						● 9月期資産運用報告発送			

■ 投資主メモ

決算期	毎年9月30日・3月31日	事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
投資主総会	2年に1回以上開催	〔郵便物送付先〕	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
同基準日	投資主総会直前の決算期日 (但し、投資主総会が決算期日より3か月を超えるときはあらかじめ公告して定めた日)	〔電話照会先〕	0120-176-417(フリーダイヤル)
分配金受領投資主確定日	毎年9月30日・3月31日	上場金融商品取引所	東京証券取引所(銘柄コード:8961)
投資主名簿等管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	公告掲載新聞	日本経済新聞

(※平成25年1月より郵便物送付先・電話照会先が変更となります。)

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 0120-782-031(フリーダイヤル)